証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

（平成 27 年度）

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座　　長	許斐　潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤ﾘｻｰﾁ･ｱﾝﾄﾞ･ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰ
	岩田 直樹	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	河村 哲孝	明治安田生命保険
	北山 信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	横沢 泰志	みずほ銀行

（五十音順）

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	髙木　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
食　　品	佐治　広	みずほ証券
化学・繊維	金井 孝男	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
医　薬　品	田中　洋	みずほ証券
石油・鉱業	塩田 英俊	SMBC 日興証券
鉄鋼・非鉄金属	山口　敦	UBS 証券
機　　械	齋藤 克史	野村證券
電気・精密機器	嶋田 幸彦	SMBC 日興証券
自動車・同部品・ﾀｲﾔ	北山 信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
電力・ガス	新家 法昌	みずほ証券
運　　輸	一柳　創	大和証券
通信・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	忍足 大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
商　　社	成田 康浩	野村證券
小　売　業	正田 雅史	野村證券
銀　　行	高井　晃	大和証券
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰｿﾌﾄ	上野　真	大和証券
新興市場銘柄	納　博司	いちよし経済研究所
個人投資家向け情報提供	竜沢 俊彦	野村證券

目　　次

はじめに …… 2頁

ディスクロージャー優良企業 …… 3

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業 …… 4

ディスクロージャーの改善が著しい企業 …… 4

概　　括 …… 5

各専門部会報告 …… 7

- 建設・住宅・不動産 …… 8
- 化学・繊維 …… 14
- 医薬品 …… 21
- 石油・鉱業 …… 27
- 鉄鋼・非鉄金属 …… 33
- 電気・精密機器 …… 39
- 自動車・同部品・タイヤ …… 49
- 電力・ガス …… 55
- 運輸 …… 61
- 通信・インターネット …… 67
- 商社 …… 73
- 小売業 …… 78
- 銀行 …… 85
- コンピューターソフト …… 91
- 新興市場銘柄 …… 97
- 個人投資家向け情報提供 …… 104

は　じ　め　に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を平成7年度からスタートさせましたが、このほど平成27年度（第21回）の選定結果がまとまりましたので、ここに発表します。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は7業種を評価対象としてスタート致しましたが、その後対象は漸次増加し、これまでに評価対象とした業種は 16 となりました。

本年度は、建設・住宅・不動産、化学・繊維、医薬品、石油・鉱業、鉄鋼・非鉄金属、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、電力・ガス、運輸、通信・インターネット、商社、小売業、銀行、コンピューターソフトの14業種を評価対象としております。

また、平成17年度から、従来の業種別優良企業選定とは別に、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を開始し、本年度も継続しております。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて企業情報開示の促進・向上、充実に寄与して参りたいと存じますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いする次第であります。

ディスクロージャー
2015年度 優良企業

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大東建託	（6回連続7回目）
化学・繊維	旭化成	（12回連続12回目）
医薬品	シスメックス	（新規）
石油・鉱業	昭和シェル石油	（新規）
鉄鋼・非鉄金属	住友金属鉱山	（5回連続5回目）
電気・精密機器	オムロン	（3回目）
自動車・同部品・タイヤ	富士重工業	（2回連続2回目）
電力・ガス	東京瓦斯	（4回連続9回目）
運輸	東日本旅客鉄道	（4回連続8回目）
通信・インターネット	日本電信電話	（新規）
商社	三菱商事	（14回目）
小売業	ローソン	（4回連続9回目）
銀行	三菱UFJフィナンシャル・グループ	（2回連続4回目）
コンピューターソフト	SCSK	（2回連続3回目）
新興市場銘柄	セリア	（2回連続2回目）
	ピーシーデポコーポレーション	（新規）
	フジオフードシステム（2社同得点3位）	（新規）
	プロトコーポレーション（2社同得点3位）	（6回目）
個人投資家向け情報提供	シスメックス	（4回連続4回目）
	三菱UFJフィナンシャル・グループ	（新規）
	日本電産	（3回連続9回目）

（注）同順位の場合、社名はコード番号順に掲載

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して上位（2位ないしは3位）の評価を受けた次の5社を高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を贈呈することと致しました。

建設・住宅・不動産	長谷エコーポレーション
医薬品	塩野義製薬
電力・ガス	電源開発
運輸	ヤマトホールディングス
コンピューターソフト	野村総合研究所

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の6社に称賛状を贈呈することと致しました。

化学・繊維	三井化学
電気・精密機器	ソニー
〃	TDK
商社	双日
小売業	丸井グループ
コンピューターソフト	ITホールディングス

概　　括

ディスクロージャー研究会
座長　許　斐　　潤

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で21回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1．評価対象

(1)　業種別については、原則として東証一部上場株式時価総額を基準として選定した、建設・住宅・不動産（16社）、化学・繊維（18社）、医薬品（19社）、石油・鉱業（7社）、鉄鋼・非鉄金属（14社）、電気・精密機器（22社）、自動車・同部品・タイヤ（20社）、電力・ガス（15社）、運輸（18社）、通信・インターネット（12社）、商社（7社）、小売業（18社）、銀行（14社）、コンピューターソフト（13社）の14業種合計213社を対象とした。

(2)　新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Boardおよびアンビシャスの五つの市場に上場している企業の中で、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の26社を対象とした。このうち17社は昨年度からの継続評価対象、3社は再対象、6社は新規である。

(3)　個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（14業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位1割（小数点切上げ）のうち、平成26年7月から27年6月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している企業の20社を対象とした。このうち、継続対象が11社、再対象が2社、新規が7社である。

(4)　評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成26事業年度に関する企業情報（平成27年6月の評価実施時点までに開示された情報を含む。）に係るものとした。

2．評価方法等

(1)　業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示」、「3. フェアー・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲内で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目、配点も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。

この業種別評価基準（スコアシート〈以下同〉）に基づき、証券アナリスト経験年数3年以上でかつ現在当該業種担当概ね2年以上のアナリスト、延428名が評価を行った。なお、各評価対象企業の評価に当たっては、各アナリストの自主申告により、過去1年間における当該企業への接触回数（4回以上）の要件を満たしていることとしている。

(2)　新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の5分野のうち、「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く4分野に関して、10項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準に基づき、新興市場銘柄をカバーしている（当該企業の情報開示に関しコンタクト実績がある）63名のアナリストが評価を行った。

(3)　個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書等の内容」の3分野について16項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準のうち、5項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの11項目は、証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員15名が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

(4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会（16部会、計121名の委員）において慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書を基に各業種等の優良企業の選定を行った。

3．評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

(1) 業種別における評価平均点は、建設･住宅･不動産68.1点（昨年度70.6点、以下カッコ内は昨年度）、化学･繊維73.8点（73.2点）、医薬品72.7点（73.3点）、石油･鉱業69.1点（68.8点）、鉄鋼･非鉄金属72.9点（73.7点）、電気･精密機器76.5点（73.5点）、自動車･同部品･タイヤ66.3点（65.1点）、電力･ガス66.0点（65.4点）、運輸67.4点（70.8点）、通信･インターネット70.2点（68.5点）、商社74.7点（75.4点）、小売業70.2点（74.2点）、銀行75.2点（77.8点）、コンピューターソフト65.1点（63.7点）であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも反映している。また、昨年度の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の増減や内容の修正、配点の見直し、対象企業の増減といった点等を考慮する必要がある。特に、本年度はコーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示の分野において、配点を増加し、または具体的評価項目を追加した業種もある。従って、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について昨年度と厳密に比較することは難しいものの、各業種別専門部会における評価結果の取りまとめ審議や、評価を行ったアナリストの意見等を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは概ね向上傾向にあると評価することができる。ちなみに、本年度は、改善が著しい企業として6社が挙げられた。

なお、「有益な、工場見学会、事業部説明会、技術説明会、店舗（施設）見学会等の積極的な開催」については、多くの業種において、総じて評価の水準が低く、今後の改善が望まれる。

(2) 新興市場銘柄の評価平均点は62.9点（昨年度63.4点）であった。

本年度は評価対象企業26社中、再対象3社と新規対象6社が含まれていることを勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について昨年度と比較することは難しい。しかしながら、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの企業で、経営陣自らIRを行っていること等その取組姿勢や、IR部門の対応等その機能について、評価することができるとの声が多かった。

(3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、本制度の対象として継続して個人投資家向け情報提供を取り上げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は71.5点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会の開催」については、過去1年間の平均開催回数9.6回（昨年度9.9回）と昨年度とほぼ同水準となっている。また、全対象企業の20社中、15社が同説明会の内容をホーム・ページに掲載しており、そのうち9社（60%［昨年度65%］）は、動画または音声配信をしている。その充実度や分かりやすさについての評価結果も昨年度を若干上回った。また、ホーム・ページに個人投資家向けコーナーを設けている企業は、全社（100%、同96%）あり、画面構成や分かりやすさ等に工夫が見られるほか、事業報告書等の内容について、写真、グラフ、図表を適度に用いて、個人投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった努力がうかがえる企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で、企業ディスクロージャーの促進･向上、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

【各専門部会報告】

16 部会

社名は登記社名に統一し、平成 27 年 10 月 5 日現在である。

〔評価実施アナリストの所属会社名は原則として評価実施時点(6 月)で統一〕

建設・住宅・不動産

大成建設、大林組、清水建設、長谷工コーポレーション、鹿島建設、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、東急不動産ホールディングス、TOTO、LIXIL グループ、リンナイ、三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産　（計 16 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	33
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	17
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	12
計		23	100

（注）具体的な評価項目および配点は 12 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 28 社の 35 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 11 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**コーポレート・ガバナンス関連**の 3 項目の配点を増加すると共に、他の分野において 2 項目を 1 項目に併合したほか、内容を変更して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.1 点（ちなみに昨年度は 70.6 点）となった。また、対象企業の総合評価点の標準偏差は 6.9 点（昨年度 6.6 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%（昨年度 72%）、**説明会等**が 71%（同 72%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 72%（同 74%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 60%（同 63%）、**自主的情報開示**が 62%（同 64%）となり、全分野において昨年度の水準をわずかに下回った。

具体的評価項目を見ると、全 23 項目のうち、次の 2 項目が平均得点率で 80%以上となり、多くの企業において 80%台以上の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 連結セグメント情報の分け方は企業分析にとって十分満足できる（平均得点率 80%〔得点率 90%台：3 社、80%台：8 社〕）

② ファクトブック、アニュアルレポート、CSR 報告書・環境報告書等の内容が充実（同 80%〔同 90%台:1 社、80%台:9 社〕）

一方、次の 2 項目は、多くの企業で低い得点率にとどまった。特に、前回の得点率を下回った企業が①で 12 社、②で 9 社あることから、それらの企業や平均得点率に満たない企業においては今後の改善が強く望まれる。

① 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施（平均得点率 56%、〔得点率 56%未満：7 社、前回より悪化：全社中 12 社〕）

② 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能（同 50%、〔同 50%未満：6 社、前回より悪化：同 9 社〕）

なお、業態別の評価平均点を比較して見ると、高得点順に、住宅・不動産[9 社]：70.5 点（昨年度 71.7 点）、

建設　[4 社]：66.2 点（同 65.1 点）、住宅設備[3 社]：63.9 点（同 73.5 点）と、昨年度上位の住宅設備が本年度最下位に転じた。

(2)　上位個別企業の評価概要

大東建託（ディスクロージャー優良企業〔6 回連続 7 回目〕、総合評価点：81.6 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉82%）が第 2 位、**説明会等**（86%）、**フェアー・ディスクロージャー**（81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）および**自主的情報開示**（75%）が第 1 位であった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が説明会に出席し、現況を伝えようとする前向きな姿勢や投資家との対話を経営に活かしていること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能が充実していることも高い評価を受けた。さらに、低収益事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも高く評価された。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、説明会、インタビューにおける開示について高い評価を受けた。また、説明資料に部門別の受注または売上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即していること等、説明資料の開示が詳細で充実している点が高く評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示している点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、情報開示に際し、不公平が生じないよう配慮して説明会の質疑応答の要旨をホーム・ページで情報提供している点や、投資家にとって重要と判断される月次受注の開示が充実していること等について総じて高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、具体的な株主還元策の数値目標を明示している点が他社と差のある極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、期中の定量的データの開示に関し、月次受注高に加え入居率を開示していることが高い評価となったほか、アニュアルレポートの内容が充実している点も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

長谷工コーポレーション（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3 回連続第 2 位】、総合評価点：77.5 点、第 2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（87%）が第 1 位、**説明会等**（82%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（76%）が第 5 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（65%）が第 4 位、**自主的情報開示**（63%）が 2 社同得点第 8 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、業績にかかわらず経営トップが常に積極的に説明会および取材に対応しているほか、業界動向まで含めて丁寧に説明し質問に対する回答も的確であること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に十分情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることに加えて、部門別取材対応や定期的なマンション市場説明会の実施等、IR 部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や、文言の理解を深めるような十分な説明を行っている点に加え、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示について評価された。また、説明資料に部門別の利益率の実績と見通しが十分に開示されているほか、部門別の受注および売上見通しが記載され、かつ部門分けが業態に即している点等、説明資料等における開示も高い評価となった。さらに、四半期ごとの説明会資料が分かりやすく、決算発表当日の電話会議も有益である点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢について総じて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、業界データの内容が充実している点が評価された。

以上の結果、同社は 3 回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

大和ハウス工業（総合評価点：77.1 点〔昨年度比+3.4 点《第 2 位》〕、第 3 位←5 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（79%）および**説明会等**（80%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（81%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）および**自主的情報開示**（68%）が第 3 位となった。

同社は、4 分野の得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 20 項目中 15 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点や順位のアップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が投資家、アナリストと対話しようとする積極的な姿勢であり、定期的に経営方針説明会を実施していること等、経営陣の IR 姿勢が評価されたほか、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができる点等、同部門の機能が充実していることが高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会等の質疑応答において誠実に回答している点等、説明会、インタビューにおける開示が評価されたほか、部門別の受注または売上見通しが記載され、かつ部門分けは業態に即していること等、説明資料等における開示が評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について総じて高い評価を受けた。

積水ハウス（総合評価点：74.3 点〔昨年度比+4.2 点《第 1 位》〕、第 4 位←9 位）

同社は、分野別では、**説明会等**（78%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（77%）が 2 社同得点第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）および**自主的情報開示**（69%）が第 2 位となった。

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 20 項目中 15 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点や順位のアップにつながった。

同社は、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること等、フェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢等が高い評価を受けた。また、決算説明会資料や期中のデータがホーム・ページよりタイムリーに入手可能である点も高く評価された。さらに、資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていることも高い評価を受けた。

(3)　上記以外の企業についての特記事項

三井不動産（総合評価点：71.1 点、第 5 位←6 位、分野別では、説明会等（75%）第 5 位、フェアー・ディスクロージャー（77%）2 社同得点第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連（62%）第 5 位）

同社は、平均得点率が最も低水準であった 2 項目の一つである、説明会または電話会議のリプレイは電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能であるかに関し、他の 1 社と共に第 1 位の高い評価を受けた。

大成建設（総合評価点：68.9 点〔昨年度比+1.7 点〕、第 8 位←11 位）

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 20 項目中 11 項目の得点率が昨年度より改善した。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（建設・住宅・不動産）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点 33点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点 17点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 13点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(1878) 大東建託	81.6	20.5	2	28.3	1	13.8	1	10.0	1	9.0	1	1
2	(1808) 長谷工コーポレーション	77.5	21.7	1	26.9	2	13.0	5	8.4	4	7.5	8	2
3	(1925) 大和ハウス工業	77.1	19.8	3	26.5	3	13.7	2	8.9	3	8.2	3	5
4	(1928) 積水ハウス	74.3	17.7	6	25.7	4	13.1	3	9.5	2	8.3	2	9
5	(8801) 三井不動産	71.1	17.6	7	24.7	5	13.1	3	8.0	5	7.7	7	6
6	(1803) 清水建設	70.5	18.0	4	24.6	6	12.0	8	7.9	6	8.0	5	10
7	(8802) 三菱地所	69.8	17.8	5	24.0	7	12.9	6	7.3	10	7.8	6	4
8	(1801) 大成建設	68.9	17.4	9	23.3	8	12.4	7	7.7	9	8.1	4	11
9	(1802) 大林組	65.6	16.4	11	23.2	9	11.8	9	7.1	12	7.1	11	12
10	(5947) リンナイ	65.1	17.5	8	21.9	11	11.5	12	7.8	8	6.4	13	7
11	(5938) LIXILグループ	63.7	16.5	10	20.7	15	11.8	9	7.2	11	7.5	8	3
12	(5332) TOTO	63.2	15.5	15	20.9	14	11.8	9	7.9	6	7.1	11	8
13	(8804) 東京建物	61.9	16.1	12	22.3	10	10.9	16	6.5	16	6.1	15	14
14	(8830) 住友不動産	60.7	16.0	13	21.1	12	11.3	14	6.6	15	5.7	16	13
15	(3289) 東急不動産ホールディングス	60.1	16.0	13	19.9	16	11.2	15	6.8	14	6.2	14	15
16	(1812) 鹿島建設	59.0	12.0	16	21.1	12	11.5	12	7.1	12	7.3	10	16
	評価対象企業評価平均点	68.1	17.3		23.4		12.2		7.8		7.4		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.9点、昨年度は6.6点であった。

27年度評価項目および配点(建設・住宅・不動産)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (25点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	10
② 社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していますか。	5
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (33点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	5
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示	
① 部門別(**注1**)の受注または売上見通し(**注2**)が記載され、かつ部門分けは各々の業態に即したものですか。また、部門別(**注1**)の利益率の実績と見通しは十分に開示されていますか。	5
② 連結セグメント情報の分け方は企業分析にとって十分満足できるものですか。	4
③ 企業分析に必要な連結子会社・関係会社・SPC等の資産・負債・収益の状況が十分に説明されていますか。	5
④ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [四半期ごと開催:2点、3回開催:1点、その他:0点]	2
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(**単体の業績動向等を含む**)が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (17点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(**注3**)の開示は迅速に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や期中のデータがタイムリーに入手が可能ですか。	5
(3) 説明会または電話会議のリプレイ	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
(4) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供はタイムリーで、内容も充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (13点)
(1) 資本政策、株主還元策	
・ 資本政策、株主還元策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	5
(3) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分な説明がされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① 期中の定量的データは開示され、それについて的確な説明が付加されていますか。	5
② 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	5
③ ファクトブック、アニュアルレポート、CSR報告書・環境報告書等の内容は充実していますか。	2

(**注1**)「部門別」については、業態により・・
ゼネコン:国内・海外および官・民・土・建・その他、住宅:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、不動産:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、住宅設備:製品別・その他　・・と読み替えて下さい
(**注2**)「受注または売上げ見通し」については、業態により・・
建設・住宅については受注・売上げの見通し、不動産・住宅設備については売上げの見通し　・・と読み替えて下さい
(**注3**)投資家にとって重要と判断される事項は、東証のTDネットへの登録を含む下記のような事項です。
例えば・・受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等である。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部　会　長	髙木　　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
部会長代理	大谷　洋司	ﾄﾞｲﾂ証券
	伊藤　昌哉	みずほ投信投資顧問
	沖野　登史彦	UBS 証券
	川嶋　宏樹	SMBC 日興証券
	竹川　克彦	三井住友信託銀行
	水谷　敏也	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券

評価実施アナリスト（35 名）

浅川　直騎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
穴井　宏和	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信
伊藤　昌哉	みずほ投信投資顧問
今泉　達矢	みずほ投信投資顧問
入沢　　健	立花証券
大谷　洋司	ﾄﾞｲﾂ証券
大室　友良	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
沖野　登史彦	UBS 証券
尾原　香代子	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
神谷　悠介	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川嶋　宏樹	SMBC 日興証券
木村　　勝	岩井ｺｽﾓ証券
坂口　真人	三菱 UFJ 信託銀行
島田　嘉一	立花証券
嶋田　利佳	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
髙木　　敦	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
宝田　めぐみ	東洋証券
竹内　一史	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
竹川　克彦	三井住友信託銀行
寺岡　秀明	大和証券
寺田　修輔	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
富田　展昭	極東証券経済研究所
橋本　　浩	富国生命投資顧問
橋本　嘉寛	みずほ証券
福島　大輔	野村證券
細貝　広孝	QBR
堀部　吉胤	ﾃｨｰ・ｱｲ・ﾀﾞｳﾞﾘｭ
前川　健太郎	野村證券
水谷　敏也	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
道脇　祐介	三菱 UFJ 信託銀行
宮本　太郎	みずほ投信投資顧問
望月　政広	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
安田　圭介	みずほ信託銀行
八掛　達格	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日立化成　（計 18 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	33
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	14
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	5	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	8
計		23	100

（注）具体的な評価項目および配点は 19 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 27 社の 30 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 18 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち**コーポレート・ガバナンス関連**で項目数および配点を増加したほか、他の 3 分野の配点を変更して評価を実施した。このため、昨年度とは同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.8 点（ちなみに昨年度は 73.2 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 6.3 点（昨年度は 5.2 点）となった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%（昨年度 74%）、**説明会等**が 76%（同 75%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 80%（同 81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 66%（同 64%）、**自主的情報開示**が 61%（同 61%）で、各分野共昨年度と大きな変動はないが、**コーポレート・ガバナンス関連**と**自主的情報開示**が他の分野の水準と比べて低く、また差が大きいことに加え、拡大している。

具体的評価項目について見ると、全 23 項目のうち 6 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に次の項目は多くの企業において 80%台以上の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① ホーム・ページを利用した有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）（平均得点率 90%〔得点率 90%台：14 社、80%台：3 社〕）

② 四半期ごとの業績動向に関する説明会（電話会議を含む）の開催（同 90%〔満点：17 社〕）

③ 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている（同 82%〔80%台：16 社〕）

一方、次の項目は、平均得点率が最も低く、低水準の得点率にとどまっている各企業において、今後一層の改善が望まれる。

・ 工場見学、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し内容が充実（平均得点率 58%〔得点率 50%未満：6 社〈上位 6 社：80%が 1 社、70%台が 5 社〉〕）

なお、評価実施アナリストの意見を見ると、大半の企業で経営トップがミーティングに出席し、自社の状況、今後の方針を語っている姿勢を評価する声が多かった。

(2) 上位個別企業の評価概要

旭化成（ディスクロージャー優良企業〔12 回連続 12 回目〕、総合評価点：83.5 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉84%）が第 2 位、**説明会等**（85%）および**フェアー・ディスクロージャー**（89%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が第 2 位、**自主的情報開示**（75%）が第 3 位であった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を認識し積極的な情報発信や意見交換に努めていると共に、IR 部門への十分な人員配置、同部門への権限移譲を行っていること等、経営陣の IR への取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の対応がスムーズな点が高く評価された。さらに、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がされていること等、IR の基本スタンスも高い評価を受けた。

説明会等においては、四半期決算説明会の席上で各事業会社の経営企画担当者と議論ができることや、インタビューにおける十分な補足説明が高い評価を受けた。また、説明会資料等にサブセグメントの計数が掲載されていること等、説明資料等における開示に関しても高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等のほか、ホーム・ページにおける動画・音声の配信、質疑応答を含む説明会の議事録の日本語および英語による情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、採用している経営機構について十分説明しているほか、中長期的な目標と関連する定性・定量情報の開示が充実している点が高く評価された。

自主的情報開示においては、E-mail を利用した有用な情報提供が評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

三井化学（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：82.3 点〔昨年度比+3.0 点《第 3 位》（昨年度対前年比+4.6 点）〕、第 2 位←3 位←7 位〈一昨年度〉）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（85%）が第 1 位、**説明会等**（82%）および**フェアー・ディスクロージャー**（86%）が第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）が 2 社同得点第 3 位、**自主的情報開示**（76%）が第 2 位となった。

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 19 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 18 項目中 12 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点や順位のアップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を認識して、積極的な情報発信に努めているほか、トップミーティングなどで今後の経営方針等を積極的に意見交換していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができる等、同部門の機能も高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示している点も高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実している点が高い評価を受けた。また、市況等の説明資料が充実していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等のほか、ホーム・ページにおける説明会および電話会議のリプレイ、質疑応答の要旨の情報提供等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況をわかりやすく説明している点が高く評価された。

自主的情報開示においては、工場見学や事業説明会を実施し、理解促進を高めていることが高い評価を受けた。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

住友化学（総合評価点：81.5 点〔昨年度比+3.2 点《第 2 位》（昨年度対前年比+2.7 点）〕、第 3 位←5 位←6 位〈一昨年度〉）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）および**説明会等**（81%）が第 5 位、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が 2 社同得点第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（79%）および**自主的情報開示**（80%）が第 1 位となった。

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 19 の具体的評価項目でも、連続満点項目を除く 18 項目中 10 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点や順位のアップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を認識し IR に関与しているほか、トップミーティングなどで今後の経営方針等を積極的に意見交換していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができること等、同部門の機能も評価された。さらに、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮している点も高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページにおける説明会および電話会議のリプレイ、質疑応答の要旨の情報提供等について高い評価を受けたほか、投資家にとって重要と判断される事項の開示が遅滞なく実施されている点も高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることに加えて、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点等、目標とする経営指標等が高く評価された。

自主的情報開示においては、インベスターズハンドブックの内容が充実していることや E-mail を利用した有用な情報提供が評価された。

昭和電工（総合評価点：81.0 点、第 4 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（83%）が第 3 位、**説明会等**（85%）および**フェアー・ディスクロージャー**（87%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第 5 位、**自主的情報開示**（66%）が第 6 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を認識しており、IR 部門に適切な人員配置を行っているほか、経営トップが説明会等に出席し今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積されており、担当者の積極的な情報開示と豊富な知識に基づく解説が行われ、理解が促進される等、同部門の機能が充実している点が高く評価された。さらに、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高く評価された。

説明会等においては、インタビューにおける対応や補足説明が充実していることに加えて、説明会資料等において企業分析に必要な情報が充実している点が高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢およびホーム・ページを利用した有用な情報提供について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点が高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

JSR（総合評価点：79.1 点、第 5 位←6 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（82%）、説明会等（82%）第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連（77%）第 3 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**においては、トップミーティングなどで今後の経営方針等を積極的に意見交換していること等、経営陣の IR 姿勢が評価を受けたほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮している点等、IR の基本スタンスも高い評価となった。

説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実しているほか、説明資料がわかりやすく有用であることが高い評価を受けた。

コーポレート･ガバナンス関連においては、財務目標や財務戦略が整合性の取れたわかりやすい内容となっており、株主還元策について積極的に十分に説明していることがトップの高い評価となった。

以　　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点33点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点14点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目5（配点15点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(3407) 旭化成	83.5	25.2	2	28.1	1	12.5	1	11.7	2	6.0	3	1
2	(4183) 三井化学	82.3	25.4	1	27.2	3	12.1	3	11.5	3	6.1	2	3
3	(4005) 住友化学	81.5	24.6	5	26.8	5	11.9	4	11.8	1	6.4	1	5
4	(4004) 昭和電工	81.0	24.9	3	27.9	2	12.2	2	10.7	5	5.3	6	2
5	(4185) JSR	79.1	24.7	4	27.1	4	11.2	10	11.5	3	4.6	9	6
6	(4208) 宇部興産	76.7	23.8	6	25.7	7	11.9	4	9.9	11	5.4	5	7
7	(4188) 三菱ケミカルホールディングス	75.3	22.4	11	25.5	9	11.6	6	10.6	6	5.2	7	10
8	(4217) 日立化成	75.0	23.4	7	25.3	10	11.3	8	10.4	8	4.6	9	9
9	(3401) 帝人	74.8	23.3	8	25.8	6	11.1	11	10.2	9	4.4	12	13
10	(4204) 積水化学工業	74.6	22.8	10	25.7	7	11.4	7	10.5	7	4.2	15	4
11	(3402) 東レ	74.2	22.3	12	25.2	11	11.3	8	9.9	11	5.5	4	8
12	(4202) ダイセル	72.2	23.2	9	24.0	14	10.6	14	10.1	10	4.3	14	12
13	(4088) エア・ウォーター	70.4	21.0	15	24.1	13	11.0	12	9.9	11	4.4	12	15
14	(4042) 東ソー	68.8	22.0	14	24.7	12	10.7	13	6.9	17	4.5	11	14
15	(4063) 信越化学工業	67.6	22.3	12	23.5	15	10.5	16	6.3	18	5.0	8	11
16	(4091) 大陽日酸	65.7	20.4	16	22.5	16	10.6	14	8.9	15	3.3	18	16
17	(4118) カネカ	64.3	19.5	17	22.2	17	9.9	18	8.5	16	4.2	15	18
18	(3405) クラレ	62.7	19.4	18	20.3	18	10.1	17	9.2	14	3.7	17	17
	評価対象企業評価平均点	73.8	22.8		25.0		11.2		9.9		4.9		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.3点、昨年度は5.2点であった。

27年度評価項目および配点(化学・繊維)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。 (**IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等**)	8
② 経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (33点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2) 説明資料等(**短信・添付資料および補足資料を含む**)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、TDネット経由で入手できますか。	6
② 説明会資料等において投資家が求める情報が十分に開示されていますか。	7
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(**電話会議を含む**)を開催していますか。 [開催あり:1点　開催なし:0点]	1
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (14点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
② 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等**)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(**決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等**)を行っていますか。	2
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイ(**質疑応答、議事録を含む**)は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (15点)
(1) 経営機構について	
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(**例えば、営業利益率、ROE等**)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	4
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(**資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株**)に関し十分な説明がされていますか。	3
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等(**アナリスト主催を含む**)を実施し、かつその内容は充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	4
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	2
③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

化学・繊維専門部会委員

部　会　長	金井　孝男	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
部会長代理	澤砥　正美	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
	清宮　啓嗣	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	竹内　　忍	SMBC 日興証券
	山田　幹也	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
	渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券

評価実施アナリスト（30 名）

荒木　廉太郎	三井住友信託銀行	竹内　　忍	SMBC 日興証券
石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信	仲田　育弘	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
板倉　充知	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	中原　周一	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
伊藤　健悟	QBR	夏目　宏之	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
今津　拓洋	みずほ信託銀行	野口　英彦	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
榎本　尚志	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	花城　輝樹	りそな銀行
大谷　洋司	ﾄﾞｲﾂ証券	福島　大輔	野村證券
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
金井　孝男	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	村松　高明	UBS 証券
桑原　明貴子	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
齋藤　達哉	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	八掛　達格	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐藤　和佳子	みずほ証券	山田　幹也	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
澤砥　正美	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券	吉田　　篤	みずほ証券
清宮　啓嗣	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　一茂	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高橋　　豊	極東証券経済研究所	渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

協和発酵キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬、田辺三菱製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、久光製薬、参天製薬、ツムラ、テルモ、沢井製薬、第一三共、大塚ホールディングス、大正製薬ホールディングス、シスメックス　（計 19 社・コード順）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**日本新薬**を加え、計 19 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	6	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	32
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	5	12
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	10
計		22	100

（注）具体的な評価項目および配点は 25 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは　28 社の 30 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 24 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち 1 項目を新設、1 項目について内容を若干修正し、4 項目の配点を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、72.7 点（ちなみに昨年度は 73.3 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 8.5 点（昨年度 6.8 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 73%（昨年度 73%）、**説明会等**が 75%（同 76%）、**フェアー･ディスクロージャー**が 86%（同 85%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が 67%（同 68%）、**自主的情報開示**が 59%（同 62%）となり、5 分野共昨年度と同レベルであった。

具体的評価項目について見ると、全 22 項目のうち、8 項目が平均得点率で 80%以上となり、一部を除く多くの企業で、高い水準の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 外国人投資家にも配慮した情報提供（平均得点率 90%、〔満点：14 社、80%台：1 社〕）
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮（同 90%〔満点：1 社、90%台：15 社〕）
③ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示（同 90%〔満点：2 社、90%台：11 社、80%台：5 社〕）
④ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（同 90%〔満点：6 社、90%台：6 社、80%台：3 社〕）

一方、次の項目は、依然として平均得点率が最も低く、しかも一昨年度以降低下傾向にある。低位にある企業にあってはさらなる努力が望まれる。

・ 会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設け、その内容の有益性（平均得点率 53%《昨年度 57%》、〔得点率 50%未満：7 社《昨年度 6 社》〕）

(2)　上位個別企業の評価概要

シスメックス（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：84.3 点、第 1 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉86%）および**説明会等**（84%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（95%）が 2 社同得点第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）が第 4 位、**自主的情報開示**（82%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR を極めて高く位置づけ、IR への関与度も高いことに加え、社長が説明会やアナリストミーティング等で経営戦略を積極的に説明するなど有意義なディスカッションができる点が高く評価された。また、経営陣は投資家の期待を十分に理解していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。さらに、会社にとってネガティブな情報についても開示を行い、今後の改善の展望を示していること等、IR の基本スタンスも高く評価された。

説明会等においては、説明およびインタビューでの補足説明が十分であることが評価された。また、四半期ごとに業績動向に関する説明会を開催し、内容が有益である点も高く評価された。さらに、決算短信と同時に入手できる補足資料（フィナンシャルデータ）の内容が充実しており、有益である点も高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策を説明していることが高く評価された。

自主的情報開示に関しては、会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会の設定に関し、継続的に開催されている技術説明会および施設見学会の内容が有益であった点がトップとなるなど、高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

塩野義製薬（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【本年度第 2 位、昨年度、一昨年度第 3 位】総合評価点：84.1 点〔昨年度比+3.0 点《上昇幅第 3 位》〕）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（89%）が第 1 位、**説明会等**（83%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（90%）が 2 社同得点第 9 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（73%）が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が定期的に説明会に出席し、経営方針等を明確に説明していることや、市場との対話を重要視している姿勢に加え、IR 部門への適正な人員配置のほか投資家の期待を理解している点等、全体として、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。さらに、IR 部門へのアクセスが良いことに加え、経営トップとのコミュニケーションも十分であり、ディスカッションが有益である点等、IR 部門の機能についても高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明およびインタビューにおける補足説明が十分であった点が高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、長期経営計画を公表し、それに沿った中期経営計画を示すと共に毎年見直す姿勢や、資本政策、株主還元策を十分に説明している点が高く評価された。

自主的情報開示に関しては、会社主催の R&D 説明会を定期的に実施し、進捗状況と次年度の目標を説明していることが高く評価された。

以上の結果、同社は 3 回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

アステラス製薬（総合評価点：83.4 点、第 3 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）および**説明会等**（83%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（96%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（71%）が第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が、IR

活動に常時参加し経営方針を明確に説明していることや、市場との対話姿勢を重視している点等、経営陣のIR への取組姿勢が高い評価を受けた。また、IR 担当者の情報集積度と説明力の高さ等、IR 部門の機能が充実していることも極めて高く評価された。さらに、会社にとってネガティブな情報についても開示を行い、今後の改善の展望を示していること等、IR の基本スタンスも極めて高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会での説明およびインタビューでの国内外における期中の状況等に関する補足説明が十分であると共に、説明会資料等において、決算短信と同時に入手できる補足資料の内容が充実しており、有益であることが高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、この分野全体についてトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、採用しているガバナンス体制について十分に説明していることに加え、新規に中期経営計画を公表し、資本政策、株主還元策について明確な方針を出している点が高く評価された。

以上のほか、**自主的情報開示**に関して、アニュアルレポート、数字に見る「医療と医薬品」の内容が充実し有益である点も高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

参天製薬（総合評価点：79.5 点〔昨年度比+5.7 点《上昇幅第 2 位》〕、第 4 位←10 位）

同社は、他の 2 社と共に 5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目中 17 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の双方のアップにつながった。

同社は、**説明会等**において、四半期情報開示に関し、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることに加え、投資家が求める情報（M&A）が十分に開示さている点が高い評価を受けた。

また、**コーポレート・ガバナンス関連**において、現在採用しているガバナンス体制について十分に説明されていることに加え、中・長期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を十分に説明していることや、資本政策、株主還元策が十分に説明されている点が高く評価された。

以上のほか、**自主的情報開示**に関して、データブックの内容が有益であったことが高い評価を受けた。

中外製薬（総合評価点：79.3 点〔昨年度比+2.6 点《上昇幅第 4 位》〕、第 5 位←6 位）

同社は、他の 2 社と共に 5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目でも、連続満点を除く 20 項目中 13 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の双方のアップにつながった。

同社は、経営陣が定期的に対話の場を設け始めたことに加え、IR 部門へのアクセスの容易性のほか、ディスカッションの有益性等、同部門の機能について高く評価された。

田辺三菱製薬（総合評価点：72.7 点〔昨年度比+5.9 点《上昇幅第 1 位》〕、第 11 位←14 位）

同社は、他の 2 社と共に 5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 21 の具体的評価項目中 14 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位の双方のアップにつながった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（医薬品）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目6（配点 28点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点 32点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6869) シスメックス	84.3	24.0	2	26.8	2	11.4	3	13.9	4	8.2	1	2
2	(4507) 塩野義製薬	84.1	24.9	1	26.4	4	10.8	9	14.7	1	7.3	2	3
3	(4503) アステラス製薬	83.4	23.6	3	26.5	3	11.5	1	14.7	1	7.1	5	1
4	(4536) 参天製薬	79.5	22.1	5	25.9	5	11.2	5	14.3	3	6.0	9	10
5	(4519) 中外製薬	79.3	22.0	6	25.8	6	11.4	3	12.9	7	7.2	4	6
6	(4506) 大日本住友製薬	77.7	21.6	8	27.2	1	11.5	1	11.6	10	5.8	11	4
7	(4555) 沢井製薬	77.2	23.1	4	25.4	7	10.3	14	13.3	5	5.1	15	8
8	(4523) エーザイ	76.3	21.9	7	24.0	10	11.0	6	13.0	6	6.4	7	7
9	(4151) 協和発酵キリン	75.3	21.1	9	25.4	7	10.9	8	11.4	12	6.5	6	5
10	(4578) 大塚ホールディングス	74.4	20.8	10	23.8	11	11.0	6	12.9	7	5.9	10	9
11	(4508) 田辺三菱製薬	72.7	20.4	11	25.1	9	10.7	11	11.5	11	5.0	16	14
12	(4543) テルモ	70.6	18.5	15	23.1	13	10.5	13	11.2	13	7.3	2	11
13	(4516) 日本新薬	68.7	19.3	13	23.8	11	7.3	19	12.7	9	5.6	12	未実施
13	(4568) 第一三共	68.7	18.2	16	22.6	15	10.8	9	10.9	14	6.2	8	12
15	(4540) ツムラ	65.8	19.6	12	22.2	16	9.0	16	10.8	16	4.2	17	13
16	(4528) 小野薬品工業	63.6	19.1	14	22.2	16	7.7	17	9.1	18	5.5	13	15
17	(4502) 武田薬品工業	62.5	16.9	17	19.3	19	10.6	12	10.5	17	5.2	14	16
18	(4530) 久光製薬	60.2	15.4	18	22.8	14	7.4	18	10.9	14	3.7	18	17
19	(4581) 大正製薬ホールディングス	54.3	13.2	19	20.4	18	9.2	15	7.8	19	3.7	18	18
	評価対象企業評価平均点	72.7	20.4		24.1		10.3		12.0		5.9		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.5点、昨年度は6.8点であった。

27年度評価項目および配点(医薬品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点(28点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(**十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等**)	6
② 経営陣がアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。	6
③ 経営陣の市場との対話姿勢をどう評価しますか。 投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	6
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(**アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等**)	5
(3) IRの基本スタンス	
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点等ネガティブなことについても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点(32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2) 説明資料等(**短信・添付資料および補足資料を含む**)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料(**地域別損益や重要な子会社の業績を含む**)が入手できますか。	7
② 説明会資料等において投資家が求める情報(**M&A、為替変動、会計処理方法の変更等による業績変動等**)が、十分に開示されていますか。	7
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報(**四半期報告書を含む**)が十分に開示されていますか。	2
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(**電話会議を含む**)を開催し、内容は有益でしたか。 [開催なし:0点]	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点(12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等**)の開示が、遅滞なく十分に、かつ公平に行われていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(**決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等**)を行っていますか。	2
(3) その他	
① 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。	2
② 外国人投資家にも配慮した情報提供(**ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等**)に努めていますか。 [十分である:2点　不十分:0点]	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点(18点)
(1) ガバナンス体制について	
・ 現在採用しているガバナンス体制について十分に説明されていますか。	6
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(**例えば目標とするROE等**)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点(10点)
① 会社主催の注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② アニュアルレポート、ファクトブック、環境報告書、知的財産報告書や統計補足資料などの内容は充実していますか。	3

医薬品専門部会委員

部　会　長	田中　　洋	みずほ証券
部会長代理	中沢　安弘	SMBC 日興証券
	稲垣　善之	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	久保山　浩之	みずほ信託銀行
	酒井　文義	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
	水野　　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（30 名）

赤羽　　高	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
池野　智彦	ｴｰｽ経済研究所
石橋　　剛	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
稲垣　善之	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩朝　亮忠	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上野　由貴	大和証券投資信託委託
尾原　香代子	ｱﾗｲｱﾝｽ･ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
久保山　浩之	みずほ信託銀行
熊谷　直美	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券
高口　伸一	三井住友信託銀行
酒井　文義	ｸﾚﾃﾞｨ･ｽｲｽ証券
澤田　信明	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
関　　篤史	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
高橋　　豊	極東証券経済研究所
田中　　洋	みずほ証券
中沢　安弘	SMBC 日興証券
橋口　和明	大和証券
花城　輝樹	りそな銀行
日比野　敏之	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
兵庫　真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
広住　勝朗	大和証券
藤原　重良	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
真下　弘司	QBR
松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
水野　　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
村岡　真一郎	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
八並　純子	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
葭原　友子	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
渡辺　律夫	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

石油・鉱業

国際石油開発帝石、石油資源開発、昭和シェル石油、東燃ゼネラル石油、出光興産、ＪＸホールディングス、コスモエネルギーホールディングス(注)　（計７社・コード順）

（注）**コスモエネルギーホールディングス**は、持株会社設立およびグループ組織再編（本年10月１日）前のコスモ石油の評価実績である。

１．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	4	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	35
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	12
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	4	11
計		21	100

（注）具体的な評価項目および配点は31頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは18 社18名である。

２．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 30頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目について、**経営陣のIR姿勢等**の分野で１項目の内容変更および２項目の削除に伴い３項目の配点を変更したほか、**説明会等**の分野において２項目の新設、１項目の内容および配点の変更、他の２分野において１項目の削除、１項目の内容変更、２項目の配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度とは同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は69.1点（ちなみに昨年度は68.8点）となった。また、総合評価点の標準偏差は4.0点と昨年度と同じであった。

業態別の平均点は、石油５社が69.5点（昨年度69.9点）、鉱業２社が68.6点（同67.8点）となり、双方の格差は0.9点（昨年度2.1点）と縮小した。

評価項目の５分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が65%（昨年度69%）、**説明会等**が74%（同70%）、**フェアー・ディスクロージャー**が84%（同85%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が61%（同58%）、**自主的情報開示**が61%（同61%）となり、昨年度に比べ**経営陣のIR姿勢等**が低下した反面、**説明会等**と**コーポレート・ガバナンス関連**は上昇した。

具体的評価項目について見ると、全21の評価項目のうち５項目が平均得点率で80%以上となり、特に、次の２項目は、全社が満点を含む80%台以上の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

①　ホーム・ページで有用な情報（決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）を遅滞なく提供（平均得点率100%、〔満点：５社、得点率95%：２社〕）

②　決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料が決算の理解に有益（同90%、〔同90%台：５社、85%：２社〕）

一方、**自主的情報開示**の分野における次の事項に係る２項目は、昨年度と同じくほぼ全社において低水準の得

点率にとどまっており、引き続き今後の改善が望まれる。

・事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催

① 十分な頻度で開催（平均得点率 47%（昨年度 47%）、〔得点率 50%台以下：5 社（昨年度 5 社）〕）

② その際の説明資料等が充実しかつ十分な開示（同 47%（同 43%）、〔同 50%台以下：6 社（同 6 社）〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

昭和シェル石油（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：72.9 点、第 1 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉76%）が第 1 位、**説明会等**（69%）が第 7 位、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第 1 位、**自主的情報開示**（67%）が第 3 位となり、5 分野中 4 分野において昨年度を上回った。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会に加えトップセミナーを年 2 回開催し、CEO が自ら経営方針を説明していること等、経営陣の IR 姿勢が他社と格差のあるトップの高い評価となった。加えて、IR 部門の担当者と業界の見方等も含めて有益な議論ができる点も評価を受けた。なお、他社よりも具体的な数値の開示範囲が狭く数値データの開示をさらに充実する必要があるが、具体的には、部門別の詳細（数量や増減益の要因）や太陽電池事業に関する十分な開示を求めるアナリストの声があった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページでの有用な情報提供や英文による情報提供について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、今後の資本政策、株主還元策を開示し、分かりやすくかつ十分に説明していることが評価を受けた。

自主的情報開示においては、ファクトブック、アニュアルレポート、E-mail 等を利用して有用な情報提供を行っていることが高く評価されたほか、事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催に関する 2 項目も平均得点率を上回った。

以上のほか、説明会において十分な質疑応答の時間を確保していること等、説明会、インタビューにおける開示も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ＪＸホールディングス（総合評価点：72.2 点、第 2 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（67%）が第 4 位、**説明会等**（78%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（84%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（60%）が第 4 位、**自主的情報開示**（72%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料が決算の理解に有益であることや、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されているなど説明資料が充実しており、説明資料等における開示に関する 5 項目全てでトップの高い評価となった。また、詳細データの開示が充実していることも高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等、この分野において総じて高く評価された。

自主的情報開示においては、内外の同業他社との比較が可能な情報を開示していることが高く評価されたほか、事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催に関しては、施設見学会および事業説明会を複数回開催し、その開示資料も有益であるとして、2 項目共に平均得点率を上回りトップの評価となった。

なお、**経営陣の IR 姿勢等**に関して、経営陣とより投資家のニーズを踏まえた質の高い議論を求めるアナリストの声が多かった。

コスモエネルギーホールディングス（総合評価点：71.2 点、第 3 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（71%）が第 2 位、**説明会等**（74%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（59%）が第 5 位、**自主的情報開示**（62%）が第 4 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営戦略の説明機会を定期的に設けるなど経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っている点等、経営陣の IR 姿勢が評価された。加えて、IR 部門に十分な情報が集積されている点など、IR 部門の機能も評価を受けた。

説明会等においては、決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料が決算の理解に有益であることや、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されていることなど、説明資料における開示が評価された。また、個別取材で求めた内容についてその後詳細にフォローができている点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページでの有用な情報提供やフェアー・ディスクロージャーへの取組姿勢等、この分野全体について高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

国際石油開発帝石（総合評価点：71.0 点、第 4 位←2 位）

同社は、**自主的情報開示**において内外の同業他社との比較が可能な情報を開示していることや、ファクトブック、アニュアルレポート、E-mail 等を利用して有用な情報提供を行っている点が高く評価された。また、社長が説明会に定期的に出席し経営の方向性を示そうとする点や議論が有益であることが評価を受けた。さらに、説明会において十分な質疑応答の時間を確保しているほか、経営陣より簡潔かつ充実した説明がなされている点等、説明会、インタビューにおける開示についても評価された。

なお、投資家にとって重要と判断される事項について迅速な開示を求めるアナリストの声が多かった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 32点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点 35点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目3（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点 12点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目4（配点 11点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(5002) 昭和シェル石油	72.9	24.2	1	24.3	7	8.5	2	8.5	1	7.4	3	3
2	(5020) JXホールディングス	72.2	21.3	4	27.4	1	8.4	4	7.2	4	7.9	1	1
3	(5021) コスモエネルギーホールディングス	71.2	22.8	2	26.0	3	8.5	2	7.1	5	6.8	4	3
4	(1605) 国際石油開発帝石	71.0	21.9	3	25.9	4	8.3	5	7.3	3	7.6	2	2
5	(5012) 東燃ゼネラル石油	68.9	21.2	5	24.5	6	8.7	1	8.0	2	6.5	5	5
6	(1662) 石油資源開発	65.0	19.4	6	25.7	5	8.1	6	6.3	7	5.5	6	7
7	(5019) 出光興産	62.3	15.7	7	26.6	2	8.1	6	6.6	6	5.3	7	6
	評価対象企業評価平均点	69.1	20.9		25.8		8.4		7.3		6.7		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、昨年度と同じ4.0点であった。

27年度評価項目および配点(石油・鉱業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 会社主催の説明会(スモールミーティングを除き、電話会議を含む)に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションをしていますか。	10
② 経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	8
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (35点)
(1) 説明資料等における開示	
① 決算短信および添付資料(TDネット掲載ベース)	
・ 主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは添付資料に適切に記載されていますか。	4
② 決算説明資料	
・ 決算発表と同日にホーム・ページに開示された資料は決算の理解に有益ですか。	2
③ 説明会資料等における実績の開示	
・ 収益および財務分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等)は、数値の継続性に留意しつつ、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	4
④ 説明会資料等における見通しの開示	
A 見通しの分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等)が、数値の継続性に留意しつつ、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	6
B 次期の利益予想の論拠が明確に示されていますか。	6
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
① 説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明がなされていますか。	5
② 説明会において、十分な質疑応答の時間を確保していますか。	4
③ 個別インタビューにおいて、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供(決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等)が遅滞なく行われていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (12点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 今後の資本政策、株主還元策を開示し、分かりやすくかつ十分に説明されていますか。	6
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (11点)
① 内外の同業他社との比較が可能な情報開示(埋蔵資源量、生産・販売量、在庫影響等)がなされていますか。	3
② 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会の開催 [過去1年間を目安に評価]	
A 十分な頻度で開催していますか。	3
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	3
③ ファクトブック、アニュアルレポート、E-mail等を利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

石油・鉱業専門部会委員

部　会　長	塩田　英俊	SMBC 日興証券
部会長代理	荻野　零児	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	北尾　征久	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松本　繁季	野村證券
	宮﨑　高志	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（18 名）

大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	新家　法昌	みずほ証券
荻野　零児	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券	清宮　啓嗣	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
狩野　泰宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	高橋　輝晃	MU 投資顧問
椛島　裕介	大和証券投資信託委託	夏目　宏之	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
北尾　征久	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	花城　輝樹	りそな銀行
坂口　真人	三菱 UFJ 信託銀行	松本　繁季	野村證券
佐久間　聰	QBR	宮﨑　高志	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
佐々木　裕一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
塩田　英俊	SMBC 日興証券	山崎　慎一	岡三証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ　（計 14 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	32
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	4	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	12
計		22	100

（注）具体的な評価項目および配点は 37 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 26 社の 27 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 36 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**コーポレート・ガバナンス関連**について評価項目および配点を増やしたほか、他の分野において内容の変更および配点を見直して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.9 点（ちなみに昨年度は 73. 7 点）であった。また、総合評価点の標準偏差は 7.0 点（昨年度 6.3 点）となった。

業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（7 社）は 71.8 点（昨年度 73.8 点）、非鉄金属（7 社）は 73.6 点（同 72.7 点）となり、本年度は非鉄金属が鉄鋼を上回ったが、その差は僅少である。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%、**説明会等**が 76%、**フェアー・ディスクロージャー**が 81%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 71%、**自主的情報開示**が 59%で、**自主的情報開示**の分野が他の分野に比べて低水準の評価となり、この傾向は例年と変化はない。

具体的評価項目について見ると、全 22 項目中 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は、1 社を除き満点あるいは 80%を上回る高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 四半期ごとの業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスの開催（平均得点率 95%、1 社を除き満点）

② ホーム・ページを利用した有用な情報提供（同 85%、〔得点率 90%：2 社、80%台：11 社〕）

一方、経営トップの市場との対話姿勢について、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えているかに関し、平均得点率は 70%の評価にとどまり、得点率の格差も大きく、アナリストが重要視している経営トップの市場との対話姿勢について多くの企業で改善が求められる。

また、平均得点率が低水準（49%）である、工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実しているかについては、引き続き多くの企業で改善が強く望まれる。（得点率 50%未満：7 社〔鉄鋼 3 社、

非鉄金属 4 社〕)

(2)　上位個別企業の評価概要

住友金属鉱山（ディスクロージャー優良企業〔5 回連続 5 回目〕、総合評価点：86.7 点、第 1 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%）、**説明会等**（90%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（83%）の 3 分野において第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（89%）、**自主的情報開示**（78%）の 2 分野において 2 社同得点第 1 位であった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが IR の重要性を理解し、アナリストミーティング等において経営戦略、事業環境等の説明が明確で充実していることや、投資家の期待や懸念に対して真摯に対応している点に加え、役員による定期的な投資家訪問を積極的に実施していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分な情報が集積され有用な情報提供が行われている点等、同部門の機能も高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明が詳細で分かりやすいこと等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価を受けたほか、収益および財務分析に必要な情報や投資家の関心に即した部門別および主要関連会社等の実績および見通しのデータの記載が十分であり、また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、説明資料等における開示も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、長期ビジョンに基づいた中期経営計画を策定し、その進捗状況を十分に説明していること等、目標とする経営指標等が高い評価を受けた。また、株主還元策について十分に説明している点も評価された。

自主的情報開示に関しては、工場見学会の開催が頻度・内容共に充実していたこと等により、得点率が昨年度を大幅に上回り、改善につながった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日立金属（総合評価点：82.5 点、第 2 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（87%）が第 2 位、**説明会等**（83%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が 2 社同得点第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（74%）が第 6 位、**自主的情報開示**（78%）が 2 社同得点第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが投資家に対してより分かりやすいメッセージを発信しようとする姿勢がみられること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価されたほか、IR 部門の担当者が経験豊富で、かつ専門性が高く、トップと密接なコミュニケーションが取れている点等、同部門の機能も高い評価を受けた。

説明会等においては、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、説明会、インタビューでの開示が高い評価となった。また、企業分析に必要かつ十分な補足資料がホーム・ページより入手できることや、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をして開示を行っている点等、説明資料等における開示についても評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢およびホーム・ページを利用した有用な情報提供について高く評価された。

自主的情報開示に関しては、工場見学会の内容が充実していたことや、E-mail を利用した有用な情報提供が評価された。

以上のほか、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることに加えて、中期の経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のため具体的方策を十分に説明している点等、目標とする経営指標等の開示が高い評価を受けた。

DOWA ホールディングス（総合評価点：80.4 点、第 3 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 4 位、**説明会等**（85%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（89%）が 2 社同得点第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）が第 10 位、**自主的情報開示**（73%）

が第3位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営トップがアナリストミーティングにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること等、経営陣のIR姿勢が評価されたほか、IR部門に十分な情報が蓄積されており、担当者が投資家に向けて伝わりやすく情報提供していること等、同部門の機能が充実している点が評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での説明が十分であることに加え、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っている点等、説明会、インタビューにおける開示が高く評価された。また、企業分析に必要かつ十分な補足資料がホーム・ページより入手できるほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、説明資料等における開示についても高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

自主的情報開示に関しては、工場見学会の内容が充実していたことが評価された。

以上のほか、中期の経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のため具体的方策を十分に説明していることが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三菱マテリアル

（総合評価点：77.0点、第4位←5位、分野別では、説明会等（82%）第4位、フェアー・ディスクロージャー（85%）2社同得点第3位）

同社は、IR部門に十分な情報が集積されている点や、インタビューにおいて説明会資料等の理解を深めるような十分な説明を行っていることのほか、収益および財務分析に必要な情報を説明会資料に十分に記載していることが高く評価された。また、ホーム・ページにおける有用な情報提供等も高い評価を受けた。

丸一鋼管

（総合評価点：76.4点、第5位←4位、分野別では、経営陣のIR姿勢等（84%）第3位、コーポレート・ガバナンス関連（82%）第2位）

同社は、経営トップが定期的に投資家訪問を行うなど対話に積極的であることや、経営方針をしっかり発信している点が高い評価を受けた。また、IR部門に十分な情報が集積されていることも高く評価された。

さらに、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、経営計画を公表し、その進捗状況を十分に説明していること等、目標とする経営指標等の開示が高い評価を受けたことに加え、株主還元策について十分に説明している点も高く評価された。

フジクラ

（総合評価点：72.0点〔昨年度比+3.3点（昨年度対前年比+3.1点）〕、第7位←11位←2社同得点13位〈一昨年度〉）

同社は、5分野中4分野の得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の16の具体的評価項目でも、連続満点を除く15項目中8項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点と順位のアップにつながった。

同社は、IR部門に十分な情報が集積されている点や、株主還元策について十分説明していることが高い評価となった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点 32点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目3（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4（配点 16点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(5713) 住友金属鉱山	86.7	26.4	1	28.8	1	8.9	1	13.3	1	9.3	1	1
2	(5486) 日立金属	82.5	26.1	2	26.7	3	8.5	3	11.9	6	9.3	1	3
3	(5714) DOWAホールディングス	80.4	24.7	4	27.1	2	8.9	1	10.9	10	8.8	3	2
4	(5711) 三菱マテリアル	77.0	22.9	6	26.3	4	8.5	3	11.0	9	8.3	4	5
5	(5463) 丸一鋼管	76.4	25.1	3	23.2	9	7.9	9	13.1	2	7.1	7	4
6	(5401) 新日鐵住金	73.1	22.2	7	23.2	9	7.8	11	12.1	3	7.8	5	7
7	(5803) フジクラ	72.0	23.0	5	23.9	5	7.8	11	12.0	4	5.3	12	11
8	(5413) 日新製鋼	70.6	22.0	8	23.8	7	7.7	13	11.2	8	5.9	10	8
9	(5411) ジェイ エフ イー ホールディングス	69.9	21.2	9	22.8	11	7.9	9	12.0	4	6.0	9	10
10	(5802) 住友電気工業	69.1	20.8	10	23.3	8	8.3	5	11.5	7	5.2	13	12
11	(5706) 三井金属鉱業	67.5	20.5	11	21.6	14	8.3	5	9.9	12	7.2	6	14
12	(5406) 神戸製鋼所	66.6	18.2	14	23.9	5	8.1	8	10.5	11	5.9	10	9
13	(5471) 大同特殊鋼	65.3	19.1	12	22.0	13	7.6	14	9.7	13	6.9	8	6
14	(5801) 古河電気工業	62.5	18.3	13	22.1	12	8.3	5	8.8	14	5.0	14	13
	評価対象企業評価平均点	72.9	22.1		24.2		8.1		11.4		7.1		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.0点、昨年度は6.3点であった。

27年度評価項目および配点(鉄鋼・非鉄金属)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営トップのIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(**十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等**)	8
② 経営トップがアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。	8
③ 経営トップの市場との対話姿勢をどう評価しますか。 投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	4
(2) 説明資料等(**短信・添付資料および補足資料を含む**)における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料(**詳細なファクトブックを含む**)が、TDネット経由またはホーム・ページで入手できますか。	4
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	4
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	4
C 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
② 四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり:2点　開催なし:0点]	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等**)の開示は、遅滞なく行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(**決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等**)を行っていますか。	4
(3) その他	
・ 説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか。[1点、0点の評価とする]	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (16点)
(1) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(**例えば、営業利益率、ROE等**)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	4
② 中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(2) 資本政策、株主還元策等の開示	
① 資本政策(**資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株等**)に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について、十分に説明していますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	2
③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部　会　長	山口　　敦	UBS 証券
部会長代理	原田　一裕	SMBC 日興証券
	榎本　尚志	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
	小野　まな実	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	五老　晴信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	竹元　宏和	みずほ信託銀行
	松本　裕司	野村證券

評価実施アナリスト(27 名)

荒木　廉太郎	三井住友信託銀行	高野　芳行	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
五百旗頭　治郎	大和証券	竹元　宏和	みずほ信託銀行
石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信	辻　　典秀	新光投信
石賀　　健	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ	富田　展昭	極東証券経済研究所
入沢　　健	立花証券	中村　宏司	QBR
榎本　尚志	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	原田　一裕	SMBC 日興証券
尾崎　慎一郎	大和証券	平井　克典	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小野　まな実	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松本　裕司	野村證券
梶山　　健	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮原　秀和	丸三証券
鐘江　健一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	牟田　知倫	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
椛島　裕介	大和証券投資信託委託	八木　啓行	富国生命投資顧問
黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山口　　敦	UBS 証券
五老　晴信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	山田　真也	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
添谷　昌生	りそな銀行		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

【産業・民生エレクトロニクス部門】
日立製作所、三菱電機、オムロン、日本電気、富士通、パナソニック、ソニー
【電子部品部門】 **日本電産、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工**
【精密機器部門】 **富士フイルムホールディングス、コニカミノルタ、セイコーエプソン、ニコン、オリンパス、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン**
（計 22 社・コード順）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**オリンパス**を加え、**東芝**については一連の経緯に鑑みて評価の対象外とし、計 22 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	7	34
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	8
計		20	100

（注）具体的な評価項目および配点は 47 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 32 社の 58 名である。

2．評価結果

(1) **総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」〈部門別を含む〉は 43～46 頁参照）。

本年度は、**フェアー・ディスクロージャー**の分野において、外国人投資家向け情報提供に関し 2 項目を新設すると共に配点を見直したほか、他の分野において内容変更および配点を見直して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下〈全体〉と省略）の総合評価平均点は 76.5 点（ちなみに昨年度は 73.5 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.1 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 78%（昨年度 75%）、**説明会等**が 79%（同 76%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 81%（同 80%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 71%（同 69%）、**自主的情報開示**が 63%（同 56%）となり、**自主的情報開示**の分野において改善（7 ポイント）が見られた。

また、評価対象企業を 3 部門に分けて評価結果を比較すると、評価平均点の高い順に、産業・民生エレクトロニクス（7 社）が 78.5 点（昨年度 75.9 点）、電子部品（6 社）が 75.5 点（同 72.3 点）、精密機器（9 社）が 75.4 点（同 71.9 点）となり、3 部門共平均得点率は上昇し、部門間格差も縮小した。

具体的評価項目について見ると、全 20 項目中 9 項目が 80%以上の平均得点率となり、特に、次の 3 項目は一部の企業を除き、満点を含む高い水準の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）となった。

① ホーム・ページや説明会資料等の英語対応（全社満点）

② IRの専門部署があり取材が容易（平均得点率93%、〔満点3社、得点率90%台：14社、80%台：3社〕）
③ 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値の適切な記載（同90%、〔同9社、同80%台：12社〕）

一方、次の項目（新設）はほぼ半数の企業で0点となった。多くの企業で今後の改善が望まれる。

・ 説明会およびテレフォンカンファレンス時の和英同時通訳あるいは英語による実施（平均得点率：45%、〔0点：10社〕）

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

オムロン（ディスクロージャー優良企業〔3回目〕、総合評価点：91.0点〔前回比+7.3点〕、第1位←2位、産業・民生エレクトロニクス部門：3回連続第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉93%）が第1位、**説明会等**（86%）が2社同得点第4位、**フェアー・ディスクロージャー**（96%）が2社同得点第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（95%）および**自主的情報開示**（88%）が第1位となった。

同社は、5分野全ての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも昨年度と同一内容の17項目中14項目の得点率が昨年度を上回る結果となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が先頭に立ってIR活動を推進しているほか、会社主催の説明会において自ら経営戦略を分かりやすく説明していること等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門に詳細な情報が蓄積されており、投資家とのコンタクトも定期的で情報開示も十分である点等、同部門の機能が充実していることが高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高く評価された。また、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されていることや、説明資料に主要セグメントの売上高および営業利益が十分かつ継続的に記載されている点が高い評価を受けた。加えて、売上高の補足情報が四半期ベースで開示されていることも高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供（質疑応答を含めた決算説明会の状況の配信等）が高く評価されたことに加え、外国人投資家向け情報提供についても満点の評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用している経営機構について説明がされていることや、中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を十分に説明していること、さらには資本政策、株主還元策についても触れていること等、この分野の全ての項目で他社と格差のある極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、技術説明会の内容が有益であったこと等が高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日本電産（総合評価点：87.3点、第2位←1位、電子部品部門：11回連続第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（92%）が第2位、**説明会等**（90%）が第1位、**フェアー・ディスクロージャー**（77%）が第13位、**コーポレート・ガバナンス関連**（84%）が第2位、**自主的情報開示**（75%）が2社同得点第6位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長が四半期ごとの決算説明会で長期的なビジョンを説明した上で具体的かつ戦略レベルの方向性を提示していること等、経営陣のIR姿勢が極めて高い評価を受けた。また、社長の考えがIR部門に浸透しており、担当者が常に最新のデータを準備して取材対応している点等、同部門の機能が充実していることも高く評価された。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも高い評価となった。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高い評価を受けたほか、決算説明会のプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されている点も高く評価された。また、インタビューにおいて、主要商品の販売動向が数量・販売金額・構成比・成長率をもって、十分に説明されていることや、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示され、かつ今後の方向性を説明している点についても高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期計画が具体的でそこに至る過程も明確であることや、経営機構について十分に説明している点が高く評価された。

以上の結果、同社は、電子部品部門において、11 回連続第 1 位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる。

日立製作所（総合評価点：84.0 点、第 3 位←5 位、産業・民生エレクトロニクス部門第 2 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）が 2 社同得点第 3 位、**説明会等**（82%）が第 9 位、**フェアー・ディスクロージャー**（94%）が第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（79%）が 2 社同得点第 3 位、**自主的情報開示**（86%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、CEO と COO が会社主催の説明会において、経営方針・中期計画等を十分に説明していることが高い評価を受けた。加えて、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮している点も高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供が高く評価され、また、外国人投資家向け情報提供についても満点の評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営機構について十分に説明していることや、中期経営計画に関する進捗状況の丁寧な説明が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、毎年開催される日立 IR Day に加え工場見学会の内容が高く評価された。

以上のほか、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が充実しており、かつ簡潔に要約されていることや、インタビュー等で売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されていることも高い評価となった。

TDK

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：81.5 点〔昨年度比+7.6 点〕、第 4 位←12 位、電子部品部門：11 回連続第 2 位、分野別では、説明会等（86%）2 社同得点第 4 位、フェアー・ディスクロージャー（93%）第 4 位）

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも昨年度と同一内容の 17 項目中 16 項目の得点率が昨年度を上回る結果となり、総合評価点と順位のアップにつながった。

同社は、**説明会等**においては、決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値が適切に記載されていることが満点評価となったほか、インタビュー等で主要商品の販売動向が数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていることや、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示されかつ今後の方向性を説明している点についても高い評価となった。加えて、**フェアー・ディスクロージャー**に関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供が高く評価され、また、外国人投資家向け情報提供についても満点の評価となった。

以上のほか、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していること等、IR の基本スタンスについて高い評価を受けた。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

オリンパス

（総合評価点：80.7 点、第 5 位【新規】、精密機器部門：第 1 位【新規】、分野別では、説明会等（87%）第 2 位、自主的情報開示（79%）第 3 位）

同社は、**説明会等**においては、決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値が適切に記載されていることが満点評価となったほか、説明資料に主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されている点が高い評価を受けた。また、インタビュー等で主要商品の販売動向が数量・販売金額・成長率等をもって十分に説明されていることや、売上高および営業利益の補足情報が四半期ベースで開示され、かつ今後の方向性を説明している点についても高い評価となった。加えて、**自主的情報開示**においては、内視鏡工場見学会を実施したことが評価された。

以上の結果、同社は、精密機器部門において、第 1 位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスク

ロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

ソニー

（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：79.3 点〔昨年度比＋11.8 点〕、第 8 位←20 位、産業・民生エレクトロニクス部門：第 3 位←9 位、分野別では、フェアー・ディスクロージャー（96%）2 社同得点第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）2 社同得点第 5 位、自主的情報開示（78%）第 4 位）

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回ったが、全社の中で唯一、具体的評価項目 20 項目のうち昨年度と同一内容の 17 項目の全てにおいて得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点と順位を最も改善させた。特に、**自主的情報開示**において IR Day、経営方針説明会および技術説明会を実施したことや、**コーポレート・ガバナンス関連**において中期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を説明していることが評価された。加えて、**フェアー・ディスクロージャー**に関しては、その取組姿勢やホーム・ページでの有用な情報提供が高く評価され、また、外国人投資家向け情報提供についても満点の評価となった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

(4)　**部門別（平均評価点上位順）の上位個別企業の評価概要**

【産業・民生エレクトロニクス部門、平均評価点：78.5 点】

オムロン（総合評価点：91.0 点、当部門：3 回連続第 1 位、全体：第 1 位←2 位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【電子部品部門、同：75.5 点】

日本電産（総合評価点：87.3 点、当部門：11 回連続第 1 位、全体：第 2 位←1 位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【精密機器部門、同：75.4 点】

オリンパス（総合評価点：80.7 点、当部門：第 1 位【新規】、全体：第 5 位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電気・精密機器：全体）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 33点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 34点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 13点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6645) オムロン	91.0	30.8	1	29.4	4	11.5	1	12.3	1	7.0	1	2
2	(6594) 日本電産	87.3	30.5	2	30.7	1	9.2	13	10.9	2	6.0	6	1
3	(6501) 日立製作所	84.0	27.6	3	27.9	9	11.3	3	10.3	3	6.9	2	5
4	(6762) TDK	81.5	27.0	6	29.4	4	11.2	4	9.5	7	4.4	16	12
5	(7733) オリンパス	80.7	26.2	8	29.6	2	9.8	9	8.8	13	6.3	3	未実施
6	(6724) セイコーエプソン	80.6	27.1	5	28.5	7	10.0	8	9.4	9	5.6	10	8
7	(8035) 東京エレクトロン	79.5	27.6	3	28.7	6	10.4	6	8.9	12	3.9	18	9
8	(6758) ソニー	79.3	25.3	15	26.6	13	11.5	1	9.7	5	6.2	4	20
9	(4901) 富士フイルムホールディングス	77.6	25.4	13	27.6	10	8.8	15	9.7	5	6.1	5	14
9	(6981) 村田製作所	77.6	25.7	11	29.5	3	8.8	15	8.7	15	4.9	13	13
11	(6701) 日本電気	77.3	25.4	13	26.8	11	10.7	5	8.7	15	5.7	8	7
12	(7731) ニコン	77.1	26.8	7	28.0	8	8.3	19	8.3	17	5.7	8	3
13	(4902) コニカミノルタ	76.4	25.9	9	26.8	11	8.5	18	10.3	3	4.9	13	11
14	(6752) パナソニック	75.9	25.8	10	25.5	16	9.1	14	9.5	7	6.0	6	10
15	(6988) 日東電工	72.8	25.5	12	24.2	20	8.6	17	9.2	11	5.3	12	18
16	(6503) 三菱電機	71.5	24.1	17	24.6	19	8.1	20	9.3	10	5.4	11	15
17	(6702) 富士通	70.5	23.9	18	25.7	15	8.1	20	8.1	18	4.7	15	4
18	(7752) リコー	70.1	23.7	19	25.3	17	9.5	10	7.7	19	3.9	18	16
19	(7741) HOYA	69.2	24.7	16	24.9	18	9.5	10	7.7	19	2.4	21	23
20	(6963) ローム	67.3	23.0	20	23.4	22	8.0	22	8.8	13	4.1	17	21
21	(7751) キヤノン	66.7	20.3	22	25.8	14	10.3	7	7.4	21	2.9	20	22
22	(6971) 京セラ	64.9	21.7	21	24.2	20	9.5	10	7.2	22	2.3	22	19
	評価対象企業評価平均点	76.5	25.6		27.0		9.7		9.2		5.0		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.7点、昨年度は6.1点であった。

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 33点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 34点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 13点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6645) オムロン	91.0	30.8	1	29.4	1	11.5	1	12.3	1	7.0	1	1
2	(6501) 日立製作所	84.0	27.6	2	27.9	2	11.3	3	10.3	2	6.9	2	3
3	(6758) ソニー	79.3	25.3	5	26.6	4	11.5	1	9.7	3	6.2	3	9
4	(6701) 日本電気	77.3	25.4	4	26.8	3	10.7	4	8.7	6	5.7	5	5
5	(6752) パナソニック	75.9	25.8	3	25.5	6	9.1	5	9.5	4	6.0	4	6
6	(6503) 三菱電機	71.5	24.1	6	24.6	7	8.1	6	9.3	5	5.4	6	7
7	(6702) 富士通	70.5	23.9	7	25.7	5	8.1	6	8.1	7	4.7	7	2
	評価対象企業評価平均点	78.5	26.1		26.6		10.0		9.8		6.0		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.2点、昨年度は5.1点であった。

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 33点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 34点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 13点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(6594) 日本電産	87.3	30.5	1	30.7	1	9.2	3	10.9	1	6.0	1	1
2	(6762) TDK	81.5	27.0	2	29.4	3	11.2	1	9.5	2	4.4	4	2
3	(6981) 村田製作所	77.6	25.7	3	29.5	2	8.8	4	8.7	5	4.9	3	3
4	(6988) 日東電工	72.8	25.5	4	24.2	4	8.6	5	9.2	3	5.3	2	4
5	(6963) ローム	67.3	23.0	5	23.4	6	8.0	6	8.8	4	4.1	5	6
6	(6971) 京セラ	64.9	21.7	6	24.2	4	9.5	2	7.2	6	2.3	6	5
	評価対象企業評価平均点	75.5	25.6		27.1		9.2		9.1		4.5		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.6点、昨年度は6.7点であった。

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 33点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 34点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 13点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(7733) オリンパス	80.7	26.2	4	29.6	1	9.8	4	8.8	5	6.3	1	未実施
2	(6724) セイコーエプソン	80.6	27.1	2	28.5	3	10.0	3	9.4	3	5.6	4	2
3	(8035) 東京エレクトロン	79.5	27.6	1	28.7	2	10.4	1	8.9	4	3.9	6	3
4	(4901) 富士フイルムホールディングス	77.6	25.4	6	27.6	5	8.8	7	9.7	2	6.1	2	5
5	(7731) ニコン	77.1	26.8	3	28.0	4	8.3	9	8.3	6	5.7	3	1
6	(4902) コニカミノルタ	76.4	25.9	5	26.8	6	8.5	8	10.3	1	4.9	5	4
7	(7752) リコー	70.1	23.7	8	25.3	8	9.5	5	7.7	7	3.9	6	6
8	(7741) HOYA	69.2	24.7	7	24.9	9	9.5	5	7.7	7	2.4	9	8
9	(7751) キヤノン	66.7	20.3	9	25.8	7	10.3	2	7.4	9	2.9	8	7
	評価対象企業評価平均点	75.4	25.3		27.3		9.5		8.7		4.6		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.3点、昨年度は6.6点であった。

27年度評価項目および配点(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (33点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 社長または会長が会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に必要に応じ適宜出席していますか。(前年7月から本年6月までの間)	4
② 社長または会長が、会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)において、経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IRの専門部署があり取材が容易にできますか。	4
② IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (34点)
(1) 説明会における開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明会資料等における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料は、充実しておりかつ簡潔に要約されていますか。	5
② 決算短信あるいは添付資料に関心度の高い数値(設備投資、減価償却費、研究開発費、為替レートの実績および予想、為替感応度、国内外従業員数の実績等)が、適切に記載されていますか。	6
③ 主要セグメントの売上高および営業利益が十分に記載されていますか。	4
(3) インタビュー等における開示	
① 主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
② 売上高および営業利益の補足情報が、四半期ベースで開示されていますか。	4
③ 上記①・②の補足情報に関する今後の方向性を説明していますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで財務データ・説明会のリプレイや質疑応答の内容等有用な情報を活用しやすい形式で提供していますか。	4
(3) 外国人投資家向け情報提供	
① ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか。	2
② 説明会およびテレフォンカンファレンス時の和英同時通訳あるいはこれらが英語により実施されていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (13点)
(1) 経営機構について	
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がなされていますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
・ 工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。(前年7月から本年6月までの間)	8

電気・精密機器専門部会委員

部　会　長	嶋田　幸彦	SMBC 日興証券
部会長代理	浦　　昌平	ｱﾑﾝﾃﾞｨ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ
	江沢　厚太	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
	佐渡　拓実	大和証券
	西野　慶太	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	福永　敬輔	三井住友信託銀行
	和田木　哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（58 名）

相場　　繁	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
秋澤　宏典	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
秋月　　学	野村證券
秋田　一太郎	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
池田　達彦	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石井　孝典	三菱 UFJ 信託銀行
石賀　　健	ｱﾗｲｱﾝｽ･ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
磯崎　　仁	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
伊藤　健悟	QBR
稲葉　章代	三井住友信託銀行
今津　拓洋	みずほ信託銀行
内野　晃彦	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
浦　　昌平	ｱﾑﾝﾃﾞｨ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ
江沢　厚太	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
大牧　実慶	立花証券
岡　　竜也	みずほ信託銀行
小野　雅弘	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
桂　　竜輔	SMBC 日興証券
久保田　悟	三井住友信託銀行
小林　守伸	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小宮　知希	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
酒井　　洋	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
佐藤　俊郎	極東証券経済研究所
佐渡　拓実	大和証券
醒井　周太	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
澤田　信明	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
嶋田　幸彦	SMBC 日興証券
菅原　繁男	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
清宮　啓嗣	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田井　宏介	大和証券
高橋　　豊	極東証券経済研究所
谷林　正行	QBR
豊田　博幸	QBR
中名生　正弘	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
西野　慶太	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
花城　輝樹	りそな銀行
引地　真二	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
平田　真悟	UBS 証券
福永　敬輔	三井住友信託銀行
細谷　雅弘	QBR
松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
松村　泰武	大和住銀投信投資顧問
宮原　秀和	丸三証券
宮本　武郎	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
牟田　知倫	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
森山　久史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
安井　健二	UBS 証券
安田　秀樹	ｴｰｽ経済研究所
安山　誠健	富国生命投資顧問
矢野　淳一郎	みずほ信託銀行
山﨑　総一	富国生命投資顧問
山崎　雅也	野村證券
山田　幹也	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
葭原　友子	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
若林　惠太	水戸証券
和田木　哲哉	野村證券
渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、ダイハツ工業、本田技研工業、スズキ、富士重工業、ヤマハ発動機、豊田合成　（計 20 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	6	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	10	32
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	7	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	5	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	12
計		31	100

（注）具体的な評価項目および配点は 53 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 32 社の 39 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 52 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**説明会等**の分野の説明資料等における開示の項目で 1 項目を追加し、他の 1 項目の内容を変更したほか、**フェアー・ディスクロージャー**の分野で外国人投資家向け情報提供に関する項目の新設に伴い 2 項目の配点を変更し、さらに、**自主的情報開示**の分野で 1 項目を削除して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 66.3 点（ちなみに昨年度は 65.1 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 11.1 点（昨年度 9.7 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 63%（昨年度 61%）、**説明会等**が 71%（同 71%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 73%（同 67%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 61%（同 66%）、**自主的情報開示**が 58%（同 57%）となり、**フェアー・ディスクロージャー**が改善する一方、**コーポレート・ガバナンス関連**が低下したほか、**自主的情報開示**が他の分野と比べて依然として低水準にとどまった。

具体的評価項目について見ると、**説明会等**および**フェアー・ディスクロージャー**の分野を中心に 11 項目が平均得点率で 80%以上となった。特に次の 4 項目の、①③は全社において高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）となり、②④は多くの企業が満点の評価となった。

① ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしている（平均得点率 100%、〔満点：16 社、得点率 90%：3 社、80%：1 社〕）

② 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催している（同 90%、〔満点：17 社、0 点：3 社〕）

③ 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われている（同 90%、〔同 90%台：19 社、80%台：1 社〕）

④ 日本語のアニュアルレポート（大幅な簡易版を除く）の作成（同 90%、〔満点：17 社、0 点：3 社〕）

一方、次の2項目は、多くの企業で低い得点率にとどまっており、今後、総じて改善が望まれる。

① 説明会のリプレイは質疑応答の状況が十分に分かる（平均得点率37%、〔得点率50%未満：11社（うち0点4社)〕）

② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定（同49%、〔同50%未満：11社〕）

また、業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、自動車メーカー70.9点（昨年度69.8点)、タイヤメーカー63.0点（同63.0点)、同部品メーカー59.0点（同57.4点）となり、本年度は、同部品メーカーは、昨年度を上回ったものの他の業態と大きな格差があり、引続き今後の改善が強く望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

富士重工業（ディスクロージャー優良企業〔2回連続2回目〕、総合評価点：86.6点、第1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉88%)、**説明会等**（89%)、**フェアー・ディスクロージャー**（89%)、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が第1位、**自主的情報開示**（80%）が3社同得点第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長自ら経営ビジョンを明らかにしており、フォローアップもしっかりと行っている等、経営陣の積極的なIR姿勢が高く評価された。さらに、IR部門への情報集積が十分であり、また、IR担当者が積極的に投資家向けに情報開示を行っていること等、同部門の機能についても高く評価された。加えて、会社にとって都合の悪い情報や、自社の弱点も含め正確な情報開示を行う等、IRの基本スタンスについても高い評価となった。

説明会等においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な補足説明がされていることや、質疑に対する回答が有意義である点等、説明会、インタビューにおける開示について高く評価された。

さらに、説明資料等における開示においては、各項目とも高い評価となったが、その中でも連結中間期の計画ベースの利益増減要因が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく記載されているかについて、他の1社と共に第3位以下と大きい格差のある極めて高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢、ホーム・ページにおける情報提供、説明会のリプレイ等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、重視する経営指標（営業利益率等)とその目標、それを採用する理由を十分に説明するともに、中期経営計画において重視する経営指標（営業利益率等)を公表し、達成のための具体的方策を説明している点が高い評価を受けた。加えて、資本政策および株主還元策の開示についても、高く評価されるなど各項目全てが高く評価された。

自主的情報開示においては、工場見学会や技術説明会等の開催に関し、新モデル技術説明会・試乗会の内容が充実していたことで、全体的に得点率が低水準のところ、高い評価を受けた。加えて、E-mailを利用した有用な情報提供などが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

マツダ（総合評価点：79.0点、第2位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（79%）が第2位、**説明会等**（76%）が第5位、**フェアー・ディスクロージャー**（88%）が3社同得点第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（75%）が第3位、**自主的情報開示**（80%）が3社同得点第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IR部門に十分な情報が集積しているうえ、IR部門以外へのアレンジに協力的であることや、安定的に高水準のIR姿勢を保っている点等、同部門の機能が高く評価された。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IRの基本スタンスについて高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページにおける情報提供、説明会のリプレイ等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標（営業利益率等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されている点や中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を説明していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、工場見学会や試乗会等の開催が有益であったことで、全体的に得点率が低水準のところ、高い評価を受けた。また、E-mail を利用した有用な情報提供などが高く評価された。

日産自動車（総合評価点：78.0 点、第 3 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（79%）が第 3 位、**説明会等**（71%）が第 10 位、**フェアー・ディスクロージャー**（88%）が 3 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（80%）が第 2 位、**自主的情報開示**（80%）が 3 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR の重要性を十分認識し、社内の協力体制を構築していること等、その IR 姿勢の評価が高かった。また、IR 部門に十分な情報が集積していることや、IR 部門以外への取材アレンジに協力的である点等、同部門の機能が評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、説明会のリプレイの項目について、質疑応答の状況が分かりやすいことにより、他の 1 社と共に高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標（営業利益率等）とその目標、それを採用する理由の説明が十分である点が高く評価された。加えて、資本政策（資金調達、グループ持合政策）および株主還元策の開示についても高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、北米事業説明会等の内容が充実していたことで、全体的に得点率が低水準のところ、高い評価を受けた。また、E-mail を利用した有用な情報提供が高く評価された。

ヤマハ発動機（総合評価点：75.5 点、第 4 位←3 位）

同社は、IR 部門への十分かつ正確な情報の集積度やアクセスの容易性や、海外部門への取材アレンジに協力的であること等、IR 部門の機能について高い評価を受けたほか、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。また、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がされ、質疑に対する応答も十分であること等、説明会、インタビューにおける開示や、連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されている点も高く評価された。加えて、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明していることも評価された。

デンソー（総合評価点：74.3 点、第 5 位←9 位）

同社は、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮をしていること等、IR の基本スタンスについて高い評価となった。また、説明会、インタビュー、説明資料等における開示全般において評価された。加えて、ホーム・ページにおける情報提供のほか自主的情報開示での工場見学会や技術説明会等の開催に関して、安全技術説明会やタイ工場見学会の開催が有益であったことで、相対的に高い評価を受けた。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目6（配点 26点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目10（配点 32点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目7（配点 15点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目5（配点 15点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(7270) 富士重工業	86.6	22.8	1	28.6	1	13.3	1	12.3	1	9.6	2	1
2	(7261) マツダ	79.0	20.6	2	24.4	5	13.2	2	11.2	3	9.6	2	4
3	(7201) 日産自動車	78.0	20.5	3	22.7	10	13.2	2	12.0	2	9.6	2	2
4	(7272) ヤマハ発動機	75.5	19.3	4	25.1	3	12.0	10	10.8	4	8.3	7	3
5	(6902) デンソー	74.3	18.5	6	24.8	4	11.6	11	10.1	7	9.3	5	9
6	(7211) 三菱自動車工業	73.9	18.4	7	23.9	6	13.0	5	10.1	7	8.5	6	6
7	(7203) トヨタ自動車	72.2	18.8	5	23.0	9	12.2	7	8.1	16	10.1	1	5
8	(6201) 豊田自動織機	70.0	17.3	9	23.4	7	12.6	6	8.7	12	8.0	8	13
9	(5110) 住友ゴム工業	69.9	17.5	8	26.0	2	12.2	7	9.7	9	4.5	17	7
10	(7202) いすゞ自動車	68.6	17.1	10	23.1	8	11.4	12	10.4	6	6.6	10	11
11	(7269) スズキ	68.1	16.0	14	22.3	11	13.2	2	8.7	12	7.9	9	10
12	(5108) ブリヂストン	64.2	16.1	13	21.6	16	10.7	15	10.8	4	5.0	15	12
13	(7267) 本田技研工業	62.6	14.3	16	22.3	11	12.1	9	7.7	17	6.2	12	8
14	(7259) アイシン精機	61.6	14.7	15	21.9	15	11.3	13	9.1	11	4.6	16	15
15	(7240) NOK	60.5	16.4	11	22.2	13	7.7	17	8.6	14	5.6	14	18
16	(7205) 日野自動車	59.4	16.2	12	22.1	14	8.4	16	8.4	15	4.3	18	17
17	(7262) ダイハツ工業	57.7	13.2	18	20.8	17	10.8	14	6.7	18	6.2	12	14
18	(5101) 横浜ゴム	55.6	13.4	17	20.3	18	6.1	19	9.3	10	6.5	11	16
19	(3116) トヨタ紡織	44.2	9.8	20	17.1	20	7.1	18	6.5	19	3.7	19	19
20	(7282) 豊田合成	42.7	9.9	19	17.6	19	5.5	20	6.0	20	3.7	19	20
	評価対象企業評価平均点	66.3	16.5		22.8		10.9		9.2		6.9		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は11.1点、昨年度は9.7点であった。

27年度評価項目および配点(自動車・同部品・タイヤ)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (26点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。(IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限移譲、情報集積への支援等)	4
② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定し、経営方針等について有意義なディスカッションができますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。	4
② アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	2
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**配点 (32点)**
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
② 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
③ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
④ 原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、記載もしくは説明されていますか。	2
⑤ 販売価格の変動の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、記載もしくは説明されていますか。	2
⑥ 売上を分析するのに有用な情報(注)が十分に記載されていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。 [開催あり:1点　開催なし:0点]	1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	**配点 (15点)**
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	1
② 決算説明会の配布資料の掲載は十分ですか。	2
(3) 外国人投資家向け情報提供	
・ ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか。	2
(4) 説明会のリプレイについて	
① 説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [4回すべて視聴できる:3点　2回のみ視聴できる:2点　1回のみ視聴できる:1点　視聴できない:0点]	3
② 説明会のリプレイは、質疑応答の状況が十分に分かるようになっていますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**配点 (15点)**
(1) 経営機構について	
・ 現在採用している経営機構について十分な説明がされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	4
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。	3
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	**配点 (12点)**
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	8
② E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3
③ 日本語のアニュアルレポート(大幅な簡易版を除く)を作成していますか。 [作成あり:1点　なし:0点]	1

(注)有用な情報については、【業態】毎に、【自動車メーカー】:地域別小売台数、輸出台数、生産台数等
【同部品メーカー】:ユーザー別および製品別売上高等 【タイヤメーカー】:地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等。

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部　会　長	北山　信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
部会長代理	広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	岩井　　徹	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	椙本　将隆	野村證券
	野口　正太郎	SMBC 日興証券
	箱守　英治	大和証券
	吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（39 名）

秋田　一太郎	ｽﾊﾟｰｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
秋田　昌洋	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
石川　照夫	みずほ信託銀行
板倉　充知	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩井　　徹	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
岩元　泰晶	岡三証券
大濱　洋平	野村證券
加藤　真二	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
狩野　泰宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
北山　信次	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
君島　重晴	大和住銀投信投資顧問
椙本　将隆	野村證券
栗生　　博	ﾄﾞｲﾂ証券
小西　慶祐	QBR
坂口　大陸	みずほ証券
坂牧　史郎	大和証券
大門　明子	三菱 UFJ 信託銀行
高田　　悟	ﾃｨｰ・ｱｲ・ﾀﾞｳﾞﾘｭ
高橋　耕平	UBS 証券
高山　周作	岡三証券
田中　健司	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
成瀬　伸弥	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券
二本柳　慶	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
根来　裕昭	三井住友信託銀行
野口　正太郎	SMBC 日興証券
萩原　　学	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
箱守　英治	大和証券
人見　邦彦	新光投信
広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
星　　匠	東洋証券
松村　　茂	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
松本　邦裕	SMBC 日興証券
三浦　勇介	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
武藤　健郎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
持田　浩晃	丸三証券
森山　　茂	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
森脇　　崇	みずほ証券
吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
吉田　達生	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電力・ガス

東京電力、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯、静岡ガス　（計 15 社・コード順）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**静岡ガス**を加え、計 15 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	31
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	4	13
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	1	12
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	12
計		18	100

（注）具体的な評価項目および配点は 59 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 20 社の 20 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 58 頁参照）。

本年度は、前回の具体的評価項目のうち、3 項目の配点を変更して評価を実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、66.0 点（ちなみに前回は 65.4 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 7.3 点（前回 7.8 点）となった。

また、電力（11 社）とガス（4 社）の総合評価平均点は、それぞれ 62.8 点（前回 62.3 点）と 74.2 点（同 76.8 点）となり、本年度の双方の格差（11.4 点）は、前回（14.5 点）に比べて縮小した。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 67%（前回 63%）、**説明会等**が 67%（同 68%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 77%（同 75%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 55%（同 54%）、**自主的情報開示**が 61%（同 62%）となり、**コーポレート・ガバナンス関連**は本年度も低水準の状態が続いている。

具体的評価項目について見ると、全 18 項目のうち、次の 4 項目は全社において満点あるいは 80%台以上の高い水準の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等）の迅速かつ十分な開示（平均得点率 100%、〔満点：14 社〕）

② 情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分に注意（同 100%、〔満点：10 社〕）

③ 決算発表とほぼ同時にホーム・ページで決算の理解に有益な資料の開示（同 93%）

④ 経営分析を行う上で、必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮（同 83%）

一方、次の 4 項目は平均得点率が 50%台で相対的に低水準であり、特に電力会社について今後一層の改善の努力が期待される。

① 説明資料に定量情報として、見通しの分析に必要な情報の十分な記載（平均得点率 52%、〔得点率 50%台以下：9 社・全社電力〕）

② 説明資料に定性情報として、見通しの分析に有益な情報の十分な記載（同 54%、〔同 50%台以下：9 社・全社電力〕）

③ 経営計画の十分な説明（同 54%、〔同 50%台以下：9 社・全社電力〕）

④ 配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示し、目標数値がない場合でも客観的かつ合理的な説明を実施（同 55%、〔同 50%台以下：11 社・全社電力〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

東京瓦斯（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 9 回目〕、総合評価点：82.4 点、第 1 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉80%）、**説明会等**（84%）、**フェアー・ディスクロージャー**（78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（92%）、**自主的情報開示**（78%）と、5 分野全てにおいて第 1 位となった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが IR の重要性を認識し、市場と意思疎通を図ろうとする機会が多いことなどが評価された。また、IR 部門での的確な情報整理と説得力の高い情報発信や、担当者と業界を俯瞰した有益なディスカッションができることなども評価された。

説明会等においては、説明資料に、収益および財務分析に必要な情報や、主要子会社等の実績データを投資家の関心に即して継続的に記載しているほか、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）を適切に記載し、また、定性情報として、見通しの分析に有益な情報（事業戦略等）を適切に説明していることが高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページで有用な情報提供を行っていることが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元の方針が明確であることや、キャッシュフローの使途明示等、セクター内では相対的に方針が明瞭であり、他社と格差のある高い得点率でトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実し有用であることが評価された。なお、経営計画の説明においては、ガス事業以外の事業戦略について更なる説明が望まれる。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

大阪瓦斯（総合評価点：75.5 点、第 2 位←2 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（71%）が第 6 位、**説明会等**（82%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（77%）が 4 社同得点第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）および**自主的情報開示**（73%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、説明資料に、収益および財務分析に必要な情報や、主要子会社等の実績データを投資家の関心に即して継続的に記載しているほか、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目）を適切に記載し、また、定性情報として、見通しの分析に有益な情報（事業戦略等）を適切に説明していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、中期経営計画の説明会を実施している点やファクトブック、アニュアルレポート等の内容が充実していることが評価された。

なお、IR 部門とのより活発なディスカッションを望む声が多かった。

電源開発

（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3 回連続第 3 位】、総合評価点：70.0 点）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（73%）および**説明会等**（74%）が第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（78%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（53%）が第 10 位、**自主的情報開示**（61%）が第 7 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**において、IR 部門に正確な情報が集積され、海外事業についての情報開示が充実している点や、IR 担当者と有意義なディスカッションができることが評価された。また、**説明会等**において、説明資料に、定量情報として見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目、設備計画等）を分かりやすく十分に記載している点や、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしていることも評価を受けた。加えて、**フェアー・ディスクロージャー**に関して、ホーム・ページで有用な情報提供を行っていることが評価された。

一方で、中・長期的な事業戦略や株主還元策等の定量的な説明を望む声が多かった。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

上記企業のほか、**静岡ガス**は、経営トップのIR姿勢や今後の経営方針についての有意義なディスカッションが評価され、**沖縄電力**は、説明資料での部門別あるいは主要子会社別等実績データの投資家の関心に即した十分な記載が評価された。

また、**中部電力**は、5分野全てにおいて得点率が昨年度を上回る改善となり、総合評価点では最大の改善幅である4.9点、順位では3ランクのアップとなった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 32点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点 31点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 13点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目1（配点 12点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9531) 東京瓦斯	82.4	25.7	1	26.1	1	10.2	1	11.0	1	9.4	1	1
2	(9532) 大阪瓦斯	75.5	22.8	6	25.3	2	10.0	4	8.6	2	8.8	2	2
3	(9513) 電源開発	70.0	23.5	3	22.8	3	10.1	2	6.3	10	7.3	7	3
4	(9543) 静岡ガス	69.4	23.2	4	21.5	6	9.9	8	7.4	4	7.4	6	未実施
5	(9511) 沖縄電力	69.3	22.7	7	22.1	4	9.9	8	6.6	6	8.0	4	6
6	(9502) 中部電力	68.2	23.1	5	21.4	7	10.1	2	6.5	7	7.1	8	9
7	(9533) 東邦瓦斯	67.9	20.3	11	22.1	4	9.8	12	8.0	3	7.7	5	4
8	(9501) 東京電力	67.4	23.7	2	20.1	8	9.7	14	5.5	12	8.4	3	5
9	(9506) 東北電力	63.2	20.8	9	18.8	10	9.9	8	6.8	5	6.9	9	8
10	(9507) 四国電力	62.8	21.6	8	18.6	12	9.9	8	6.1	11	6.6	11	7
11	(9504) 中国電力	61.9	20.5	10	18.5	13	10.0	4	6.4	8	6.5	12	10
12	(9503) 関西電力	59.2	19.9	12	18.7	11	10.0	4	4.1	15	6.5	12	11
13	(9508) 九州電力	59.1	19.0	13	18.9	9	10.0	4	4.4	13	6.8	10	12
14	(9505) 北陸電力	57.6	17.6	14	17.7	15	9.7	14	6.4	8	6.2	15	13
15	(9509) 北海道電力	54.2	15.5	15	18.0	14	9.8	12	4.4	13	6.5	12	14
	評価対象企業評価平均点	66.0	21.3		20.8		10.0		6.6		7.3		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、7.3点、前回は7.8点であった。

27年度評価項目および配点（電力・ガス）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点（32点）
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 経営トップのIR姿勢をあなたはどう評価しますか。（IRの重要性・双方向コミュニケーションとしての認識、IR部門への十分かつ適切な経営資源の配分、社内情報集積の支援等）　[概ね満足できる＝4点]	7
② 経営トップと今後の経営方針について有意義なディスカッションができますか。 [概ね満足できる＝6点]	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。[概ね満足できる＝3点]	5
② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。　[概ね満足できる＝4点]	7
(3) IRの基本スタンス	
・ 経営分析を行う上で、必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点（31点）
(1) 説明資料（決算短信および添付資料・説明会資料等）における開示	
① 決算発表当日の開示資料	
・ 決算発表とほぼ同時にホーム・ページで決算の理解に有益な資料を開示していますか。	3
② 説明資料における実績の開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。　[概ね満足できる＝4点]	6
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載されていますか。[概ね満足できる＝3点]	4
③ 説明資料における見通しの開示	
A 定量情報として、見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目、設備計画等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。 [概ね満足できる＝3点]	5
B 定性情報として、見通しの分析に有益な情報（政策動向および対応、事業戦略等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。 [概ね満足できる＝3点]	5
(2) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。[概ね満足できる＝5点]	8
3. フェアー・ディスクロージャー	配点（13点）
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。［特に問題なければ2点］	2
② 投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速かつ十分に行われていますか。［特に問題なければ2点］	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供を行っていますか。［概ね満足できる＝3点］	4
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。［概ね満足できる＝3点］	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点（12点）
・ 配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示されていますか、または、目標数値がない場合でも、客観的かつ合理的に説明されていますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点（12点）
① 経営計画の説明は十分に行われていますか。［概ね満足できる＝4点］	7
② ファクトブック、アニュアルレポート等は有益ですか。［概ね満足できる＝3点］	5

電力・ガス専門部会委員

部　会　長	新家　法昌	みずほ証券
部会長代理	西山　雄二	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	西川　周作	大和証券
	又吉　由香	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	森　　貴宏	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
	山崎　慎一	岡三証券

評価実施アナリスト（20 名）

荻野　零児	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券	又吉　由香	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松本　繁季	野村證券
佐久間　聰	QBR	三木　泰二	みずほ信託銀行
塩田　英俊	SMBC 日興証券	宮崎　高志	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
重松　揮響	三井住友信託銀行	宮田　幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
新家　法昌	みずほ証券	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高橋　輝晃	MU 投資顧問	森　　貴宏	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
富田　展昭	極東証券経済研究所	八掛　達格	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
西川　周作	大和証券	柳澤　祐介	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
西山　雄二	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	山崎　慎一	岡三証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運　輸

東京急行電鉄、小田急電鉄、京王電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、阪急阪神ホールディングス、日本通運、ヤマトホールディングス、福山通運、日立物流、日本郵船、商船三井、川崎汽船、日本航空、ANA ホールディングス、三菱倉庫、近鉄エクスプレス

（計 18 社・コード順）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**福山通運**、**三菱倉庫**を加え、計 18 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	24
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	34
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	4	10
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	5	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	14
計		22	100

（注）具体的な評価項目および配点は 65 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 21 社の 24 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 64 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**コーポレート･ガバナンス関連**において 2 項目を追加し既存 3 項目の内容修正および配点変更（増加）したほか、他の 3 分野において 3 項目の配点変更と 1 項目の削除を行い、さらに、新たな評価企業 2 社を加えて評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.4 点（ちなみに昨年度は 70.8 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 10.9 点（昨年度 10.1 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 65%（昨年度 70%）、**説明会等**が 70%（同 73%）、**フェアー･ディスクロージャー**が 78%（同 76%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が 62%（同 69%）、**自主的情報開示**が 64%（同 64%）となり、5 分野中 3 分野で昨年度を下回った。特に、**コーポレート･ガバナンス関連**が 5 分野中最低の水準となった。

具体的評価項目を見ると、全 22 項目のうち、次の 2 項目は平均得点率が 90%となり、多くの企業が満点を含む高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 投資家にとって重要と判断される事項を遅滞なく十分に開示〔満点：1 社、得点率 90%：12 社、80%：3 社〕

② ホーム・ページに当該企業を分析するための基本的情報を十分に掲載〔満点：8 社、同 90%：6 社、80%：2 社〕

一方、次の 3 項目は平均得点率が低水準であり、一部の数社を除き今後の改善が強く望まれる。

① 施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等の積極的な実施（平均得点率 50%（昨年度、

一昨年度同率)、〔得点率 50%以下：10 社〕)

② 資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策等）に関する十分な説明（同 55%、〔同 50%以下：7 社〕）

③ 経営トップ等との決算説明会以外の有益なミーティングの場の設定（同 56%、〔同 50%以下：7 社〕）

なお、業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2 社）75.3 点、海運（3 社）73.6 点に対し陸運（11 社）67.4 点、倉庫･運輸（2 社）51.7 点と依然として陸運および倉庫･運輸の下位評価企業の全般的な改善努力が強く望まれる状況に変わりはない。

(2) 上位個別企業の評価概要

東日本旅客鉄道（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 8 回目〕、総合評価点：82.0 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉80%）および**説明会等**（84%）が第 2 位、**フェアー･ディスクロージャー**（90%）が第 1 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（74%）が第 3 位、**自主的情報開示**（85%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が IR 部門に十分な人員を配置し、同部門へ権限移譲している点が高い評価を受けた。また、同部門には、経営情報を含む情報が十分集積されている上、担当者と中期的な経営状況などを議論できる点や、均質かつ安定した情報が継続的に開示されていることなど、同部門の機能が充実していることも高く評価された。

説明会等においては、投資家の求める情報を把握しており、説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしているほか、説明資料等における開示内容が工夫され、詳細でかつ見やすいことが高く評価された。

フェアー･ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢が唯一満点評価となったほか、ホーム・ページで公開している決算説明会等の説明資料および質疑応答の内容が分かりやすいことなど、この分野全体について極めて高く評価された。

コーポレート･ガバナンス関連においては、中・長期経営計画を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を毎年アップデートしており、中長期での方向性を把握しやすいことで高い評価を受けた。

自主的情報開示では、施設見学会等の実施に関して、見学会の内容に工夫が見られ充実していたことで前回を 16 ポイント上回りトップの評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

東京急行電鉄（総合評価点：81.2 点、第 2 位←5 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（75%）が第 7 位、**説明会等**（87%）が第 1 位、**フェアー･ディスクロージャー**（89%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（77%）が第 1 位、**自主的情報開示**（76%）が第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**説明会等**においては、説明および質疑応答が適切であるほか、インタビューにおける開示も高く評価された。また、投資家の求める情報が適宜説明会資料に開示されるほか、内容が詳細でかつ見やすいことなど、説明資料等における開示も他社と格差のある高い評価となった。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることで高い評価を受け、この分野で前回に続きトップとなった。

フェアー･ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢が高く評価されたほか、決算説明会等の状況のホーム・ページでの公開について、説明内容および質疑応答内容が分かりやすく、役立つことも高い評価となり、この分野全体について高く評価された。

コーポレート･ガバナンス関連においては、前中期経営計画を総括した上で、新たな中･長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策を十分に説明していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、事業説明会や施設見学会の開催が評価された。

以上のほか、IR 部門に幅広い事業領域の情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができることも高い評価を受けた。また、CFO ミーティングが初めて開催されたことが評価された。

ヤマトホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【本年度第3位、昨年度第2位、一昨年度第3位】、総合評価点：79.2点）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（80%）が第3位、**説明会等**（77%）が第4位、**フェアー・ディスクロージャー**（86%）が2社同得点第5位、**コーポレート・ガバナンス関連**（76%）が第2位、**自主的情報開示**（84%）が第2位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IR部門に十分な人員を配置しているほか、トップマネジメントと定期的なミーティングの機会があり、双方向の有益な議論ができることなど、経営陣のIR姿勢が高く評価された。

説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることなど、四半期情報開示が高い評価を受けた。加えて、説明資料等に収益および財務分析に必要な情報を記載している点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢のほか、決算説明会における質疑応答の内容がホーム・ページで掲載されており、分かりやすく役立つことについて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本コストを意識したROE目標を設定していることや、説得力のある株主還元方針の提示が高く評価された。

自主的情報開示では、有益な月次情報がタイムリーに開示されていることが極めて高く評価されたほか、施設見学会や事業見学会の開催も高い評価となった。

以上の結果、同社は3回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ANAホールディングス（総合評価点：78.5点、第4位←4位、分野別では、経営陣のIR姿勢等（79%）2社同得点第4位、説明会等（81%）第3位、フェアー・ディスクロージャー（86%）2社同得点第5位、自主的情報開示（79%）2社同得点第3位）

同社は、経営陣とのミーティングの機会が設定され、有益な議論ができることや、IR部門に各部門からの十分な情報が集積され、IR担当者と短期業績から中期的な戦略までの幅広い議論ができることが極めて高く評価された。また、インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明をしていることも高い評価を受けた。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも高く評価された。

日立物流（総合評価点：54.2点、第16位←17位）

同社は、5分野中4分野が改善し、さらに、全18社中15社において総合評価点が低下する中、昨年度を5.1点上回り、昨年度の改善14.3点（上昇幅第1位）と合わせると、19.4点の大幅な改善となった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（運輸）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 24点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点 34点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目5（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 14点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9020) 東日本旅客鉄道	82.0	19.2	2	28.5	2	9.0	1	13.4	3	11.9	1	1
2	(9005) 東京急行電鉄	81.2	18.0	7	29.7	1	8.9	2	13.9	1	10.7	5	5
3	(9064) ヤマトホールディングス	79.2	19.1	3	26.1	4	8.6	5	13.7	2	11.7	2	2
4	(9202) ANAホールディングス	78.5	19.0	4	27.4	3	8.6	5	12.5	7	11.0	3	4
5	(9101) 日本郵船	75.7	19.4	1	25.6	6	8.8	4	12.2	8	9.7	7	2
6	(9021) 西日本旅客鉄道	75.5	17.1	8	25.9	5	8.9	2	12.6	5	11.0	3	8
7	(9107) 川崎汽船	72.9	18.9	6	24.9	8	8.5	7	12.0	9	8.6	12	7
8	(9104) 商船三井	72.3	19.0	4	24.4	9	8.5	7	11.8	10	8.6	12	6
9	(9201) 日本航空	70.9	15.0	9	25.3	7	8.2	10	12.7	4	9.7	7	9
10	(9007) 小田急電鉄	64.7	13.2	13	22.9	12	7.4	13	11.5	11	9.7	7	11
11	(9022) 東海旅客鉄道	64.6	14.1	11	24.2	10	8.5	7	7.2	18	10.6	6	10
12	(9042) 阪急阪神ホールディングス	64.1	12.2	15	23.5	11	7.6	11	12.6	5	8.2	14	13
13	(9008) 京王電鉄	61.9	12.2	15	21.9	14	7.6	11	11.3	12	8.9	11	13
14	(9062) 日本通運	61.2	12.2	15	22.2	13	7.1	14	10.6	13	9.1	10	12
15	(9375) 近鉄エクスプレス	57.7	14.3	10	19.6	16	6.6	15	10.4	14	6.8	15	15
16	(9086) 日立物流	54.2	14.0	12	20.4	15	6.6	15	8.4	15	4.8	18	17
17	(9075) 福山通運	51.2	12.8	14	19.3	17	5.5	17	8.0	16	5.6	16	未実施
18	(9301) 三菱倉庫	44.4	10.6	18	15.7	18	5.4	18	7.5	17	5.2	17	未実施
	評価対象企業評価平均点	67.4	15.6		23.8		7.8		11.2		9.0		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.9点、昨年度は10.1点であった。

27年度評価項目および配点(運輸)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (24点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。 (十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	8
② 経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していますか。	8
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができますか。	3
② IR担当者がアナリストや投資家のニーズを十分理解し、IR改善の努力を継続していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (34点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	6
② インタビューにおいて、説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
① 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	7
② 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	7
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとの説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [開催あり:3点　開催なし:0点]	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく十分に行われていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① ホーム・ページに過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。 [1点、0.5点、0点の評価とする]	1
② 決算説明会等の状況のホーム・ページでの公開について	
A 決算説明会等での会社側の説明内容は分かりやすいですか。	4
B 決算説明会等での質疑応答の内容は分かりやすいですか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (18点)
(1) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	4
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	4
(2) 資本政策、株主還元策等の開示	
① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	4
(3) 経営体制について	
・ 現在の経営体制について分かりやすく開示され、かつ、十分な説明がされていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14点)
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。 (E-mail、ホーム・ページ等で)	4
② 施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	5
③ 日本語版のアニュアルレポート、ファクトブックの内容は充実していますか。	5

運輸専門部会委員

部　会　長	一柳　　創	大和証券
部会長代理	板﨑　王亮	SMBC 日興証券
	安藤　誠悟	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	土谷　康仁	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
	手塚　裕一	三井住友信託銀行
	原田　　潤	UBS 証券

評価実施アナリスト（24 名）

浅川　直騎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	角田　成宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
安藤　誠悟	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券	手塚　裕一	三井住友信託銀行
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所	富田　展昭	極東証券経済研究所
板﨑　王亮	SMBC 日興証券	長谷川　浩史	SMBC 日興証券
尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	原田　　潤	UBS 証券
唐木　健至	QBR	一柳　　創	大和証券
佐々木　裕一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姫野　良太	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
三箇　和樹	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	平井　克典	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
嶋田　利佳	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	三木　泰二	みずほ信託銀行
髙野　智尚	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高橋　輝晃	MU 投資顧問	山崎　慎一	岡三証券
土谷　康仁	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	山本　恵嗣	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信・インターネット

カカクコム、ディー・エヌ・エー、グリー、インターネットイニシアティブ、ヤフー、サイバーエージェント、楽天、日本電信電話、KDDI、NTT ドコモ、GMO インターネット、ソフトバンク（計 12 社・コード順）

1．評価方法等

本年度は、評価対象企業として、**インターネットイニシアティブ**、**サイバーエージェント**、**GMO インターネット**を加え、計 12 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		22	100

（注）具体的な評価項目および配点は 71 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 33 社の 46 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 70 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**説明会等**、**フェアー・ディスクロージャー**および**自主的情報開示**の分野の 8 項目の内容の一部を修正し、その内 4 項目の配点を変更して評価を実施したことに加え、対象企業の追加もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.2 点（ちなみに昨年度は 68.5 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 8.5 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（昨年度 74%）、**説明会等**が 71%（同 70%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 80%（同 78%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 59%（同 58%）、**自主的情報開示**が 64%（同 55%）で、昨年度に比べ**自主的情報開示**が大幅上昇（9 ポイント）し、その他 4 分野も若干改善したが、**コーポレート・ガバナンス関連**のみ低水準の評価にとどまった。

具体的評価項目について見ると、全 22 項目中、5 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に①から③の 3 項目は、本年度も満点または 90%台の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）となった。

① 会社主催の決算説明会（電話会議を含む）への社長の出席〔4 回以上出席：満点〕（平均得点率 100%、〔満点：全社〕）

② ホーム・ページでの有用な情報提供（過去の時系列データ、説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）（同 100%、〔満点：7 社、得点率 90%：4 社〕）

③ 外国人投資家に配慮した情報提供（ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制等）（同 90%〔満点：6 社、同 90%：5 社〕）

④ 決算発表日に決算内容の理解に必要な補足情報の付属資料等による十分な開示（同 80%〔同 80%台：8 社、

70%台：3社〕）

⑤ 投資家にとって重要と判断される事項（業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響等）の迅速かつ十分な開示（同80%〔同80%台：9社、70%台：2社〕）

一方、平均得点率が低水準な次の3項目は、いずれも**コーポレート・ガバナンス関連**であるが、多くの企業で今後の改善が望まれる。

- 自社株買、自社株消却の方針の説明（平均得点率53%、〈昨年度55%〉、〔得点率40%台：6社、50%台：3社〕）
- 資本政策の具体的目標の明示、かつ十分な内容（同55%、〈同53%〉、〔同40%台：5社、50%台：3社〕）
- 目標とする経営指標等の公表、その後の進捗状況・達成のための具体的方策の十分な説明（同 55%、〈同60%〉〔同40%台：5社、50%台：3社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

日本電信電話（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：80.4点、第1位←第3位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉84%）および**説明会等**（78%）が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が第5位、**コーポレート・ガバナンス関連**（80%）が第1位、**自主的情報開示**（75%）が第3位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営幹部と有益なディスカッションができることや株主の視点に立った説明がなされる点等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門に十分な情報が集積され、IR担当者が定量・定性面において的確に説明していること等、同部門の機能も高く評価された。さらに、IRの基本スタンスとして市場との対話を重要視している印象であり、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示している点も評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が充実している点が評価された。また、説明資料に主要会社別の費用項目の実績および見通しが開示されており、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用である点が、総じて高い評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、経営陣及びIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていることが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、自社株買や自社株消却方針および配当政策を客観的かつ合理的に説明していること等、株主還元策の開示が高い評価となった。また、目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策について十分に説明しており、資本政策、目標とする経営指標等の開示も高く評価された。さらに、経営機構、経営資源についての説明も評価されるなど、この分野の全項目において得点率および順位共トップとなり、他社と格差のある評価となった（第2位との差10ポイント）。

自主的情報開示では、マネジメントの一般・メディアでの発言内容・情報開示が迅速かつ公平性をもって開示されているほか、施設・設備等を紹介する機会の設定において、IR Dayや研究所見学会の開催が有益であったと評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

カカクコム（総合評価点：78.5点、第2位←第2位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（85%）、**説明会等**（81%）および**フェアー・ディスクロージャー**（87%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（69%）が第3位、**自主的情報開示**（58%）が2社同得点第9位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、社長をはじめ経営陣の情報開示が適切であることのほか、ミーティングは、社長が自ら丁寧に分かりやすく説明し、有意義なディスカッションができることが極めて高い評価となった。また、IR部門が、投資家やアナリストの知りたい内容・数値を良く把握している点に加え、同部門には各事業部からの情報がタイムリーに集積されており、IR担当者が事業の現状を的確に理解していることにより、充実したディスカッションができることも高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益の事業についても積極的な開示を行い、今後の展望を示

していることも評価された。

説明会等においては、決算説明会に各事業部のトップも参加することから、説明および質疑応答が充実しており、事業戦略を理解する上で有益であると高く評価された。また、説明資料に費用の主要項目の実績が十分に開示されており、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用であることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連では、配当政策について明示的に説明するなど株主還元に対する明確な考え方が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

NTT ドコモ（総合評価点：75.0 点、第 3 位←第 4 位、分野別では、フェアー・ディスクロージャー（83%）3 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連（70%）、自主的情報開示（76%）第 2 位）

同社は、説明資料に費用の主要項目の実績が十分に開示されており、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用であるとして高い評価（説明資料等における開示において 5 項目中 4 項目で第 1 位）となった。また、施設・設備等を紹介する機会の設定において研究所見学会が充実していたことも評価された。

KDDI（総合評価点：74.8 点、第 4 位←第 1 位、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（80%）第 3 位、自主的情報開示（78%）第 1 位）

同社は、自主的情報開示において、研究所見学会や技術説明会が有益であったことが評価されたほか、マネジメントのメディアでの発言内容を迅速かつ十分に開示している点も評価され、この分野においてトップの評価となった。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができる点も高く評価された。

ディー・エヌ・エー（総合評価点： 66.5 点〔昨年度比+9.9 点〕《上昇幅第 1 位》、第 8 位←第 9 位）

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回った。昨年度と同一内容の 14 の具体的評価項目でも、連続満点を除く 13 項目中 10 項目の得点率が昨年度より高く、総合評価点と順位のアップにつながった。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（通信・インターネット）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点 30点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目5（配点 20点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9432) 日本電信電話	80.4	25.1	2	23.5	2	9.9	5	15.9	1	6.0	3	3
2	(2371) カカクコム	78.5	25.6	1	24.2	1	10.4	1	13.7	3	4.6	9	2
3	(9437) NTTドコモ	75.0	23.6	4	21.4	7	10.0	2	13.9	2	6.1	2	4
4	(9433) KDDI	74.8	23.9	3	21.5	6	9.8	6	13.4	4	6.2	1	1
5	(4689) ヤフー	71.9	23.6	4	22.1	5	10.0	2	11.2	6	5.0	6	5
5	(9449) GMOインターネット	71.9	23.4	6	22.2	4	9.5	8	12.2	5	4.6	9	未実施
7	(4751) サイバーエージェント	71.5	22.8	7	22.5	3	10.0	2	10.8	7	5.4	4	未実施
8	(2432) ディー・エヌ・エー	66.5	21.0	9	20.9	8	9.6	7	10.6	8	4.4	11	9
9	(4755) 楽天	66.1	22.0	8	19.9	9	9.5	8	9.8	10	4.9	7	7
10	(3774) インターネットイニシアティブ	63.8	20.7	10	19.6	10	8.8	12	9.9	9	4.8	8	未実施
11	(3632) グリー	61.2	20.1	11	19.2	11	9.1	11	9.0	12	3.8	12	8
12	(9984) ソフトバンク	59.4	19.2	12	16.4	12	9.2	10	9.2	11	5.4	4	6
	評価対象企業評価平均点	70.2	22.5		21.3		9.6		11.7		5.1		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.7点、昨年度は8.5点であった。

27年度評価項目および配点(通信・インターネット)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 会社主催の説明会(**電話会議を含む**)に社長が出席していますか。 [4回以上:3点　3回:2点　1～2回:1点　なし:0点]	3
② 会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	9
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	9
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	9
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	15
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示	
① セグメント別に、アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な費用の主要項目の実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
② 決算発表日(**四半期を含む**)に、決算内容の理解に必要な補足情報が、付属資料等で、十分に開示されていますか。	3
③ オペレーションデータ(**例えば、契約数、ARPU、トラフィック、UU・MAU、解約率・買換率、課金率、端末販売・在庫台数、プロダクト毎の販売数・額等**)の四半期ごとの、実績および見通しは、十分に開示されていますか。	3
④ キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3
⑤ 会計基準の変更・セグメント見直し等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	3
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響等**)の開示は、迅速かつ十分でしたか。	3
③ 国内外における合併・出資・提携・事業の統廃合等が、P/L・BS・キャッシュフローに与える影響について、迅速かつ十分に開示されていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページで有用な情報提供(**過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等**)を行っていますか。［十分である:1点　やや不十分:0.5点　その他:0点］	1
(3) 英語による情報提供	
・ 外国人投資家にも配慮した情報提供(**ホーム・ページ、説明会資料、説明会時の和英同時通訳体制、アニュアルレポート、ファクトブック等**)に努めていますか。［十分である:1点　やや不十分:0.5点　その他:0点］	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) 株主還元策の開示	
① 配当政策が客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
② 自社株買、自社株消却の方針が説明されていますか。	4
(2) 資本政策、目標とする経営指標等の開示	
① 資本政策の具体的な目標が明示され、かつその内容は十分なものですか。	4
② 目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(3) 経営機構、経営資源について	
・ 経営機構、経営資源について十分な説明がなされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(**記者発表会等を含む**)を投資家向けにも設けており、それは有益でしたか。［過去1年間を目安に評価］	4
② マネジメントの一般・メディア(**ネットメディアを含む**)での発言内容・情報開示は、迅速かつ十分な公平性をもって開示されていますか。	4

通信・インターネット専門部会委員

部　会　長	忍足　大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
部会長代理	増野　大作	野村證券
	岩佐　慎介	みずほ証券
	大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	津坂　徹郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	土門　　泰	りそな銀行
	早川　　仁	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
	前田　栄二	SMBC 日興証券
	米島　慶一	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券

評価実施アナリスト（46 名）

浅川　直騎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
安藤　義夫	大和証券
石塚　浩一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石原　太郎	大和証券
伊藤　彰洋	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
伊藤　真仁	みずほ信託銀行
井上　直之	第一生命保険
岩佐　慎介	みずほ証券
岩渕　啓介	岡三証券
上野　賢司	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
忍足　大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
梶山　洋行	みずほ信託銀行
片山　智宏	三井住友信託銀行
金森　　都	SMBC 日興証券
菊池　　悟	SMBC 日興証券
城戸　謙治	みずほ信託銀行
木下　芳之	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
坂井　ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行
佐藤　栄二	東洋証券
佐藤　俊郎	極東証券経済研究所
佐藤　　有	SMBC 日興証券
醒井　周太	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
山藤　秀明	QBR
清水　康之	QBR
高橋　　圭	みずほ証券
田中　　聡	大和証券
田中　秀明	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
津坂　徹郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
寺島　　正	大和証券投資信託委託
土門　　泰	りそな銀行
長尾　佳尚	野村證券
中川　雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
滑川　　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
納　　博司	いちよし経済研究所
野崎　弘明	三菱 UFJ 信託銀行
早川　　仁	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券
樋口　夏子	三井住友信託銀行
前田　栄二	SMBC 日興証券
増野　大作	野村證券
宮崎　　充	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
森　はるか	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
安田　秀樹	ｴｰｽ経済研究所
山口　威一郎	大和証券投資信託委託
米島　慶一	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商　社

〔双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事　（計7社：コード順）〕

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	5	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	5	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		17	100

（注）具体的な評価項目および配点は76頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは26社の26名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は75頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目について、3項目の内容の一部を変更して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は74.7点（ちなみに昨年度は75.4点）、総合評価点の標準偏差は5.7点（昨年度3.6点）であった。

評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度〈以下省略〉75%）、**説明会等**が76%（76%）、**フェアー・ディスクロージャー**が81%（79%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が75%（74%）、**自主的情報開示**が69%（71%）と昨年度と同レベルであった。

また、具体的評価項目について見ると、全17項目中5項目が平均得点率で80%以上となり、特に、次の項目は、全社が高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている（平均得点率87%、〔得点率90%：2社、80%台：5社〕）

(2)　**上位個別企業の評価概要**

三菱商事（ディスクロージャー優良企業〔14回目〕（総合評価点：82.3点〔昨年度比+5.9点〕、第1位←3位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉82%）が第1位、**説明会等**（81%）が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が2社同得点第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（83%）および**自主的情報開示**（84%）が第1位となった。

同社は、5分野全ての得点率が昨年度を上回り、具体的評価項目でも昨年度と同一内容の14項目中10項目の得点率が昨年度より上昇したことにより、総合評価点がアップし、平成20年度以来5回ぶりのトップとなった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣のIR姿勢等**においては、決算説明会に加えトップミーティングや事業説明会等において、経営方針や経営リスク等について有意義なディスカッションができること等、経営陣の積極的なIR取組姿勢が高く評価された。また、IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、企業価値向

上に向けた議論ができることや、同部門において不明な点は事業部に迅速に確認を取って回答するなど IR 部門の機能も高く評価された。さらに、資本市場との対話を重視する IR 姿勢についても評価され、この分野の 5 項目全てでトップの評価となった。

説明会等においては、事業計画および中長期の経営方針を具体的に説明している点のほか、質疑応答が満足できること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。また、決算短信・添付資料と同時に、分析に必要な補足資料をホーム・ページで入手できる点や、一過性要因を詳細に提供してくれることが評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報の開示が充実してきた点も高く評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、企業価値向上に向けて現在採用している経営機構についての説明が極めて高い評価となったほか、経営指標に関する一定の説明や、資本政策、株主還元策に対する考え方の説明も評価された。

自主的情報開示においては、実施した部門別事業説明会の内容が有益で市場全体に安心感を与えたことで高い評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

三井物産（総合評価点：77.3 点、第 2 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）が第 3 位、**説明会等**（83%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が 2 社同得点第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）が第 3 位、**自主的情報開示**（65%）が第 5 位であった。

全社の中で得点率が上位にある分野について見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、トップとの定期的なミーティングの機会があり、今後の経営方針等について率直な意見交換ができることが評価された。

説明会等においては、事業計画および中長期の経営方針を具体的に説明している点が高い評価となった。また、決算短信の情報量、決算補足資料の内容が詳細で充実していることも高い評価を受けた。さらに、説明資料に資源・為替レート前提、センシティビティなどを詳細に開示しているほか、増減要因の図示や一過性要因資料の改善が高く評価され、この分野においてトップの評価となった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策に対する考え方の説明内容が具体的で分かりやすい点が評価された。

双日（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：76.9 点〔昨年度比+1.5 点（昨年度対前年比+4.4 点）〕、第 3 位←4 位←7 位〈一昨年度〉、22 年度比+11.9 点）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）が第 2 位、**説明会等**（77%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（74%）が第 4 位、**自主的情報開示**（73%）が第 3 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会やミーティングにおいて、経営方針や経営リスク等について社長や経営幹部と率直な意見交換ができることなど経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門が経営陣に近く、情報のみならず会社の考え方に関して議論ができる点等、IR 部門の機能も評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、海外事業見学会の開催が有益であったことで評価されたほか、E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることも評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（商社）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス　評価項目5（配点 34点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示　評価項目5（配点 30点）		3．フェアー・ディスクロージャー　評価項目2（配点 10点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示　評価項目3（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示　評価項目2（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(8058) 三菱商事	82.3	28.0	1	24.4	2	8.3	2	14.9	1	6.7	1	3
2	(8031) 三井物産	77.3	25.1	3	24.8	1	8.3	2	13.9	3	5.2	5	1
3	(2768) 双日	76.9	26.2	2	23.0	4	8.5	1	13.4	4	5.8	3	4
4	(8001) 伊藤忠商事	76.4	25.0	4	23.1	3	8.0	5	14.8	2	5.5	4	2
5	(8015) 豊田通商	74.0	25.0	4	21.8	5	8.1	4	12.9	5	6.2	2	5
6	(8053) 住友商事	66.8	20.9	7	21.5	6	7.6	7	12.6	6	4.2	7	6
7	(8002) 丸紅	66.7	22.0	6	20.8	7	7.8	6	11.4	7	4.7	6	7
	評価対象企業評価平均点	74.7	24.7		22.9		8.1		13.5		5.5		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.7点、昨年度は3.6点であった。

27年度評価項目および配点(商社)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (34点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会、またはミーティングにおいて、会長または社長と今後の経営方針や経営リスク等について有意義なディスカッションができますか。	8
② 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。	5
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
② IR部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	8
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 次期の事業計画および中長期の経営方針が具体的に説明されていますか。	5
② 質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ホーム・ページ等で入手できますか。	6
② 説明会資料等において投資家が求める情報(**金融収支、一過性の要因、投融資、価格・数量の前提および感応度等**)が十分に開示されていますか。	10
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (10点)
・ フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等**)の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	7
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (18点)
(1) 経営機構について	
・ 企業価値向上に向けて、現在採用している経営機構について十分な説明がなされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
・ 重視する経営指標(**例えば、ROE、リスク・リターン指標等**)とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。	8
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	6
② E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	2

商社専門部会委員

部　会　長	成田　康浩	野村證券
部会長代理	栗原　英明	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
	五百旗頭 治郎	大和証券
	重松　揮響	三井住友信託銀行
	永野　雅幸	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	濱口　　実	みずほ信託銀行
	林　　明史	みずほ証券

評価実施アナリスト（26 名）

五百旗頭 治郎	大和証券		角田　成宏	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信		富田　展昭	極東証券経済研究所
大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		永野　雅幸	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
尾原　香代子	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ		成田　康浩	野村證券
梶山　　健	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		濱口　　実	みずほ信託銀行
北尾　征久	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		林　　明史	みずほ証券
栗原　英明	東海東京調査ｾﾝﾀｰ		平井　克典	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
五老　晴信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券		広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐々木　裕一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		堀内　敏成	QBR
重松　揮響	三井住友信託銀行		宮崎　高志	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
下川　寿幸	立花証券		宮田　幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
添谷　昌生	りそな銀行		森　　和久	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
高橋　輝晃	MU 投資顧問		森本　　晃	SMBC 日興証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

ローソン、エービーシー・マート、J．フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、セブン&アイ・ホールディングス、良品計画、ドンキホーテホールディングス、スギホールディングス、ファミリーマート、しまむら、髙島屋、丸井グループ、イオン、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ　（計 18 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	10	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	3	14
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	4	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	8
計		24	100

（注）具体的な評価項目および配点は 83 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 25 社の 31 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 82 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**コーポレート・ガバナンス関連**の 2 項目の配点増加および 1 項目の内容変更をしたほか、他の分野の 5 項目の配点を変更して評価を実施した。本年度の総合評価平均点 70.2 点は昨年度の 74.2 点より下回っているが、その主因は**コーポレート・ガバナンス関連**と IR 部門以外のセクションへのインタビュー等の取り組みの低下によるものであった。また、総合評価点の標準偏差は 9.8 点（昨年度 8.9 点）であった。

業態別の総合評価平均点は、高得点順に、コンビニエンスストア[2 社]：80.8 点（昨年度 84.4 点）、百貨店[4 社]：75.4 点（同 77.8 点）、専門店[10 社]：67.5 点（同 71.2 点）総合小売[2 社]：66.2 点（同 72.2 点）となり、各業態共昨年度の評価点を下回った。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 72%（昨年度 73%）、**説明会等**が 73%（同 78%）、**フェアー・ディスクロージャー**が 82%（同 82%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 57%（同 66%）、**自主的情報開示**が 64%（同 66%）となり、**フェアー・ディスクロージャー**を除く 4 分野は昨年度を下回り、特に配点を増加した**コーポレート・ガバナンス関連**は 9 ポイント低下した。

また、具体的評価項目について見ると、平均得点率で 80%以上の評価項目が**説明会等**の分野などの 9 項目（昨年度 11 項目）となった。特に次の 4 項目について、18 社中 15 社以上が得点率（評価点／配点〈以下省略〉）80%以上の高い水準の評価となった。

①　月次の売上状況（既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等）および次期見通しの十分な記載（平均得点率 90%、〔満点：1 社、得点率 90%台：13 社、80%台：3 社〕）

② 決算説明会資料や月次のデータがホーム・ページでも入手可能（同 90%、〔満点：4 社、同 90%台：6 社、80%台：5 社〕）

③ 出退店についての実績および計画の十分な記載（同 85%、〔同 90%台：10 社、80%台：7 社〕）

④ セグメント分類や会計方針等の制度変更が生じた場合の過去の数値と比較可能な情報の開示（同 80%、〔同 90%台：7 社、80%台：8 社〕）

一方、次の 4 項目については、全体的に得点率が低い。これらの項目の得点率は、ディスクロージャー評価全体の順位との密接な相関関係が認められるため、今後の改善が望まれる。

① 店舗や商品展示見学会の積極的な実施（平均得点率 45%、〔得点率 40%以下：10 社〕）

② IR 部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等についての積極的な対応（同 46%、〔同 40%以下：6 社〕）

③ 配当政策・自社株買い等株主還元策の客観的かつ合理的な説明（同 55%〔同 50%以下：7 社〕）

④ コーポレートガバナンス・コードの各項目の十分な説明（同 55%〔同 50%以下：4 社〕）

(2) 上位個別企業の評価概要

ローソン（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 9 回目〕、総合評価点：82.6 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉86%）が第 1 位、**説明会等**（80%）が第 4 位、**フェアー・ディスクロージャー**（91%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）が第 3 位、**自主的情報開示**（88%）が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会等で経営トップが経営方針等を明確に分かりやすく説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に、グループ会社を含む情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができることに加え、同部門へのアクセスの容易性について得点率でトップの評価を受ける等、同部門の機能が充実している点も高く評価された。さらに、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが評価を受けたことに加え、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合に迅速かつ公平に十分な説明を行っている点について極めて高い評価となった。また、説明資料等における開示が全体的に分かりやすく充実している点も高く評価され、加えて、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示しており、特に第 1、第 3 四半期の決算資料が充実していることも高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、経営陣が情報開示につき公平な機会を与えていることが高く評価された点に加え、英文による情報提供が充実していることが得点率でトップの評価を受け、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策について客観的かつ合理的に説明していることが得点率でトップの評価を受けたほか、目標とする経営指標等の説明や平均得点率が低水準であったコーポレートガバナンス・コードの各項目についての説明も高く評価された。

自主的情報開示においては、評価対象企業の平均得点率が最も低水準であった店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会や事業戦略説明会を開催したことが高く評価されたほか、統合報告書に業務・戦略・財務目標が明確に記載されているなど、その内容が充実している点が得点率でトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

良品計画（総合評価点：82.4 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）が第 2 位、**説明会等**（83%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（90%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（74%）が第 1 位、**自主的情報開示**（75%）が 2 社同得点第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、決算説明会等で経営トップが経営方針等を明確に説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に、グループ会社を含む情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができる等、同部門の機

能が充実している点や、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることが得点率でトップの評価を受けた。また、説明資料等における開示が全体的に分かりやすく充実している点が高く評価されたことに加え、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報を開示していることが得点率でトップの評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、経営陣が情報開示につき公平な機会を与えている点等、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策の開示について客観的かつ合理的に説明していることに加え、目標とする経営指標、採用理由、目標達成の取り組み等についての説明や、平均得点率が低水準であったコーポレートガバナンス・コードの各項目についての説明が、得点率でトップの評価を受けたほか、配当等株主還元策の開示についての説明も高い評価となり、平均得点率が低水準であったこの分野全体において、トップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会等を定期的に開催していることが評価された。

J．フロント リテイリング（総合評価点：79.4 点、第 3 位←4 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）が第 4 位、**説明会等**（83%）が第 2 位、**フェアー・ディスクロージャー**（89%）が 2 社同得点第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（63%）が 2 社同得点第 4 位、**自主的情報開示**（75%）が 2 社同得点第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**については、決算説明会等において経営トップが経営戦略を明確に説明していることが評価されたほか、IR 部門へのアクセスの容易性等同部門の機能が充実している点も高い評価を受けた。加えて、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打出していること等、IR の基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることや、説明資料等における開示が全体的に充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、経営陣が情報開示につき公平な機会を与えている点等、この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標等について評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ファミリーマート（総合評価点：78.1 点、第 4 位←5 位、分野別では、フェアー・ディスクロージャー（89%）2 社同得点第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連（63%）2 社同得点第 4 位、自主的情報開示（88%）2 社同得点第 2 位）

同社は、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、担当者が敏速に対応している点や、同部門へのアクセスの容易性等、同部門の機能が充実していることが高い評価を受けた。

ただし、経営陣の IR 姿勢について、得点率が平均得点率を若干上回る水準まで上昇したものの、今後の改善が引き続き期待される。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、英文による情報提供が充実していることが得点率でトップの評価を受けるなど、この分野全体について高く評価された。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示の見学会の実施に関し、商品展示会や各種テーマに沿った説明会を積極的に開催していることで、他の 1 社と共に第 2 位の高い得点率となった。加えて、ファクトブックや日本語アニュアルレポートならびに CSR 報告部分の内容が充実している点も高い評価を受けた。

丸井グループ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：77.7 点【昨年度比+3.3 点《上昇幅第 1 位》】、第 5 位←11 位←11 位〈一昨年度〉、分野別では、コーポレート・ガバナンス関連（73%）第 2 位）

同社は、昨年度と同得点率の**説明会等**の分野を除く 4 分野において得点率が昨年度を上回る結果となった。特に、**コーポレート・ガバナンス関連**の得点率が高く、総合評価点アップ（上昇幅第 1 位）と順位の大幅なアップにつながった。

具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**において、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョン

を明確に打出していること等、IRの基本スタンスについて高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での説明および質疑応答が十分満足できることに加え、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合に迅速かつ公平に十分な説明を行っているほか、説明会会場をアクセスしやすい場所に変更するなどもあって高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策・自社株買い等株主還元策について客観的かつ合理的に説明していることが得点率でトップの評価を受けたことに加え、資本政策の開示について客観的かつ合理的に説明していることや、目標とする経営指標等についての説明も高く評価されたほか、平均得点率が低水準であったコーポレートガバナンス・コードの各項目についての説明も高く評価された。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 28点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目10（配点 30点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目3（配点 14点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目4（配点 20点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(2651) ローソン	82.6	24.2	1	24.1	4	12.8	1	14.5	3	7.0	2	1
2	(7453) 良品計画	82.4	24.1	2	24.9	1	12.6	2	14.8	1	6.0	5	2
3	(3086) J. フロント リテイリング	79.4	23.6	4	24.8	2	12.5	3	12.5	4	6.0	5	4
4	(8028) ファミリーマート	78.1	22.4	8	23.7	6	12.5	3	12.5	4	7.0	2	5
5	(8252) 丸井グループ	77.7	22.5	6	23.4	8	12.2	6	14.6	2	5.0	10	11
6	(3382) セブン＆アイ・ホールディングス	77.5	22.5	6	24.3	3	11.8	9	11.8	8	7.1	1	6
7	(7532) ドンキホーテホールディングス	77.2	23.8	3	24.0	5	11.5	10	11.8	8	6.1	4	3
8	(8282) ケーズホールディングス	75.1	22.7	5	23.5	7	11.9	8	12.1	7	4.9	11	9
9	(3099) 三越伊勢丹ホールディングス	74.3	21.7	9	23.2	9	12.3	5	11.5	10	5.6	7	7
10	(9983) ファーストリテイリング	69.3	20.4	11	19.8	15	11.3	11	12.2	6	5.6	7	12
11	(7649) スギホールディングス	69.2	20.6	10	22.2	11	11.2	12	11.2	11	4.0	13	8
12	(8233) 髙島屋	69.0	19.9	12	22.1	12	12.0	7	10.1	13	4.9	11	10
13	(8227) しまむら	66.2	18.4	14	23.0	10	11.1	13	9.9	14	3.8	15	14
13	(9989) サンドラッグ	66.2	19.7	13	21.8	13	10.3	17	10.9	12	3.5	17	13
15	(2670) エービーシー・マート	61.3	17.3	15	20.8	14	10.4	16	9.4	15	3.4	18	15
16	(9843) ニトリホールディングス	54.8	12.2	18	19.0	16	10.6	15	9.4	15	3.6	16	17
17	(8267) イオン	53.3	13.3	17	16.3	17	10.7	14	7.8	18	5.2	9	16
18	(9831) ヤマダ電機	51.9	14.1	16	15.2	18	9.6	18	9.0	17	4.0	13	18
	評価対象企業評価平均点	70.2	20.2		22.0		11.5		11.4		5.1		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.8点、昨年度は8.9点であった。

27年度評価項目および配点 (小売業)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (28点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門へのアクセスの容易性はどうですか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンが明確に打ち出されていますか。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は、十分に満足できるものですか。	3
② IR部門以外のセクション(**店舗、物流センター、海外拠点等**)へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	5
③ 投資家にとって重要と判断される事項(**例えば、業績変動、合併・提携等**)が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。	3
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示 **〔以下①－⑥については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕**	
① 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について、十分に記載されていますか。また、固定資産・在庫・のれん等の資産評価にかかわる特別な損益についても、十分に記載されていますか。	3
② 地域別、商品部門別(**含む粗利益率**)、顧客別等の売上高内訳は、詳細に記載されていますか。	2
③ 次期の事業計画(**営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費、販管費の内訳等**)は、十分に記載されていますか。	2
④ 出退店についての実績および計画(**売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期等**)は、十分に記載されていますか。(**コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に記載されているか**)	2
⑤ 月次の売上状況(**既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価等**)および次期見通しは、十分に記載されていますか。	2
⑥ セグメント分類や会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	2
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか。	6
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (14点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	8
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会資料や月次のデータが、ホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
(3) 外国人投資家向け情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(**資金調達、グループ持合政策、優先株**)について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について、十分説明されていますか。	5
(3) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、十分に説明がなされていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8点)
① 店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	2
② ファクトブックや日本語のアニュアルレポートは作成され、内容が充実していますか。	3
③ CSR報告書・環境報告書の内容は充実していますか。	3

小売業専門部会委員

部　会　長	正田　雅史	野村證券
部会長代理	小場　啓司	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	高橋　俊雄	みずほ証券
	武久　緩美	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	宮田　仁光	三井住友信託銀行
	村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	山手　剛人	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券

評価実施アナリスト（31 名）

青木　英彦	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
五十﨑　義将	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石賀　　健	ｱﾗｲｱﾝｽ・ﾊﾞｰﾝｽﾀｲﾝ
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所
伊藤　彰洋	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
金森　　都	SMBC 日興証券
川原　　潤	大和証券
城戸　謙治	みずほ信託銀行
桑平　武志	りそな銀行
高　　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小場　啓司	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
近藤　将人	三井住友信託銀行
櫻井　　亮	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
篠崎　真紀	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
正田　雅史	野村證券
高田　訓弘	三菱 UFJ 国際投信
高橋　俊雄	みずほ証券
武久　緩美	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田中　　俊	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
田村　真一	極東証券経済研究所
津田　和徳	大和証券
中川　正人	みずほ証券
永田　和子	QBR
姫野　良太	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
藤原　重良	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
堀内　敏成	QBR
宮田　仁光	三井住友信託銀行
牟田　知倫	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
守屋　のぞみ	UBS 証券
山手　剛人	ｸﾚﾃﾞｨ・ｽｲｽ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀　行

新生銀行、あおぞら銀行、三菱ＵＦＪフィナンシャル･グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト･ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、横浜銀行、常陽銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、スルガ銀行、京都銀行、みずほフィナンシャルグループ　（計 14 社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	7	36
③フェアー･ディスクロージャー	**フェアー･ディスクロージャー**	4	11
④コーポレート･ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート･ガバナンス関連**	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	12
計		19	100

（注）具体的な評価項目および配点は 89 頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは 24 社の 25 名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 88 頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、**コーポレート･ガバナンス関連**の分野で 1 項目を新設し、2 項目の配点を変更したほか、**説明会等**の分野の 1 項目の配点を変更して評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.2 点（ちなみに昨年度は 77.8 点）となった。なお、対象企業の総合評価点の標準偏差は、6.8 点（昨年度 4.6 点）であった。

評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 76%、**説明会等**が 79%、**フェアー･ディスクロージャー**が 84%、**コーポレート･ガバナンス関連**が 72%、**自主的情報開示**が 60%となり、昨年度と同様に**自主的情報開示**を除き 70%を上回る水準であった。

また、主要銀行（7 社）と地方銀行（7 社）の総合評価平均点は、それぞれ 79.2 点（昨年度 80.2 点）と 71.0 点（同 75.8 点）となり、双方の差は拡大した。

具体的評価項目について見ると、**フェアー･ディスクロージャー**での 4 項目全てをはじめ、全 19 項目中約半数の 9 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 2 項目は全社において、満点を含む高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っているか（平均得点率 90%、〔満点：2 社、得点率 90%台：10 社、80%台：2 社〕）

② 決算短信の同時配布資料の内容は十分か（同 85%、〔同 90%台：8 社、80%台：5 社〕）

一方、次の項目は昨年度に比べやや低下した。

・ IR 部門とのミーティング以外の、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等を積極的に実施しているか（同 57%〔昨年度 60%〕）

また、本年度新設のコーポレートガバナンス・コードの各項目について十分に説明されているかについては、平均得点率 63%〔得点率 50%台以下:4 社、60%台:7 社〕で、同分野の他の 2 項目の平均得点率（78%、73%）を大きく下回った。得点率の低調な企業については今後の改善の努力が望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

三菱ＵＦＪフィナンシャル･グループ

（ディスクロージャー優良企業〔2 年連続 4 回目〕、総合評価点：85.3 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）が第 1 位、**説明会等**（84%）が第 2 位、**フェアー･ディスクロージャー**（89%）が第 1 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（83%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（89%）が第 1 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、社長が決算説明会等で資本政策・新中期経営計画についてポイントを押さえて明快に説明していることや、質疑にも丁寧に対応している点等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門と経営陣の間で情報・認識の共有が図られているほか、経営陣と投資家・アナリストとの接点を増やす工夫をしていること等、同部門の機能が評価された。

説明会等においては、投資家が知りたい情報を説明資料に盛り込んでおり、配布資料が充実している点や、部門収益の開示が詳細かつ継続的であること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。

フェアー･ディスクロージャーに関しては、ホーム・ページを有効活用し必要な情報を発信しているほか、英文資料の同時開示等、この分野全体について高い評価を受けた。

コーポレート･ガバナンス関連においては、上記のとおり資本政策、株主還元策について明快に説明している点や、中期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況を説明し、新たな同計画で 1 株当たり利益目標を打ち出していること等により高く評価された。

自主的情報開示においては、MUFG Investors Day のほか、子会社の経営戦略等の説明会を開催したことが高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

みずほフィナンシャルグループ（総合評価点：82.8 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）が第 2 位、**説明会等**（80%）および**フェアー･ディスクロージャー**（85%）が第 7 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（83%）が 2 社同得点第 1 位、**自主的情報開示**（87%）が第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会等で経営方針等を自身の言葉で説得力のある説明をしていることのほか、自ら率先して IR 活動に積極的である姿勢が高く評価された。また、IR 部門への情報集積度合いが高く、同部門の担当者の質問への対応などが迅速・正確であること等、同部門の機能が充実している点が高い評価となった。

コーポレート･ガバナンス関連においては、コーポレート・ガバナンスに関する報告書において政策保有株式について保有の意義が認められる場合を除き保有しない方針をいち早く掲げたことが高く評価され、同得点第 1 位の三菱 UFJ フィナンシャル・グループと並び第 3 位以下と差のあるトップの評価を受けた。

自主的情報開示においては、MIZUHO IR Day の社外取締役による取締役会の説明など充実した内容が高く評価された。

三井住友トラスト･ホールディングス（総合評価点：80.7 点、第 3 位←3 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 3 位、**説明会等**（84%）が第 1 位、**フェアー･ディスクロージャー**（86%）が第 3 位、**コーポレート･ガバナンス関連**（74%）および**自主的情報開示**（71%）が 2 社同得点第 5 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に十分な情報が集積され、専門的な問い合わせに対しても迅速に対応していること等、同部門の機能が高い評価を受けた。

説明会等においては、部門別・項目別に損益の分析に必要なデータを一貫して開示・説明していることや、決算発表と同時に配布される資料が充実している点から、この分野全体でトップの高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される事項の開示を遅滞なく十分に行っている点等、この分野全体について高い評価となった。

自主的情報開示においては、ディスクロージャー誌の事業概要等の開示内容が充実していることで高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

りそなホールディングス（総合評価点：80.0 点、第 4 位←6 位）

同社は、5 分野中 3 分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点と順位のアップにつながった。

経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが決算説明会等において経営方針を十分に説明している点等、経営陣の IR 姿勢が評価されたほか、IR 部門と有益な意見交換ができること等、IR 部門の機能が評価された。 また、**説明会等**では、リスク情報の開示や、決算短信の同時配布資料の内容が十分であることが高い評価となった。さらに、**フェアー・ディスクロージャー**に関しては、経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていることで満点評価を受ける等、この分野全体について高い評価となった。加えて、**自主的情報開示**においては、各種の事業説明会等の積極的な実施が評価された。

千葉銀行（総合評価点：78.9 点、第 5 位←4 位）

同社は、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門と十分な意見交換ができること等、同部門の機能が評価された。**説明会等**では、部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータの一貫した十分な開示・説明や、自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した十分な開示等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。また、**フェアー・ディスクロージャー**に関しては、経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていることで満点評価を受ける等、その取組姿勢が高く評価された。さらに、**コーポレート・ガバナンス関連**においては、資本政策、株主還元策が十分に説明されているとの評価を受けた。加えて、**自主的情報開示**においては、事業説明会や IR Day の実施が評価された。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 23点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目7（配点 36点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目4（配点 11点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 18点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(8306) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	85.3	19.6	1	30.3	2	9.8	1	14.9	1	10.7	1	1
2	(8411) みずほフィナンシャルグループ	82.8	19.4	2	28.8	7	9.3	7	14.9	1	10.4	2	2
3	(8309) 三井住友トラスト・ホールディングス	80.7	18.9	3	30.4	1	9.5	3	13.4	5	8.5	5	3
4	(8308) りそなホールディングス	80.0	18.7	4	29.4	3	9.7	2	13.5	4	8.7	4	6
5	(8331) 千葉銀行	78.9	17.9	5	29.0	6	9.4	4	13.4	5	9.2	3	4
6	(8316) 三井住友フィナンシャルグループ	77.7	17.4	6	29.2	5	9.4	4	13.2	7	8.5	5	5
7	(8332) 横浜銀行	75.2	17.3	8	29.3	4	9.2	8	13.6	3	5.8	11	7
8	(8304) あおぞら銀行	74.7	17.4	6	28.5	8	9.4	4	13.2	7	6.2	9	11
9	(8333) 常陽銀行	74.0	17.3	8	28.0	12	8.9	11	12.9	9	6.9	8	10
10	(8303) 新生銀行	73.2	16.5	12	28.4	9	9.2	8	11.5	12	7.6	7	8
11	(8355) 静岡銀行	72.4	17.0	10	28.2	10	8.8	12	12.5	10	5.9	10	8
12	(8354) ふくおかフィナンシャルグループ	71.8	17.0	10	28.2	10	9.1	10	12.5	10	5.0	12	12
13	(8358) スルガ銀行	64.1	15.5	13	25.7	13	8.2	13	11.0	13	3.7	14	13
14	(8369) 京都銀行	60.3	14.1	14	24.8	14	7.7	14	9.9	14	3.8	13	14
	評価対象企業評価平均点	75.2	17.4		28.5		9.2		12.9		7.2		

（注）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.8点、昨年度は4.6点であった。

27年度評価項目および配点(銀行)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (23点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	7
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示 **(連・単の両決算)**	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	8
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	8
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか(**合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む**)。	5
④ 自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(**自主的開示を含む**)が十分になされていますか。	6
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示	
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	2
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	5
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供(**過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況**)を行っていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (18点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(2) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、十分に説明がなされていますか。	6
(3) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(**ROEなど目標とする経営指標等**)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① IR部門とのミーティング以外に、子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価]	10
② アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実していますか。	2

銀行専門部会委員

部　会　長	高井　　晃	大和証券
部会長代理	山田　能伸	ﾄﾞｲﾂ証券
	大槻　奈那	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券
	鮫島　豊喜	BNP ﾊﾟﾘﾊﾞ証券
	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	藪谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（25 名）

幾代　孝四郎	ﾊﾟｲﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾂ	高宮　　健	野村證券
石井　　宏	三菱 UFJ 国際投信	中村　真一郎	SMBC 日興証券
伊勢　和正	みずほ信託銀行	永本　成克	MU 投資顧問
伊奈　伸一	UBS 証券	西野　孝明	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
今井　　雅	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	西村　英一郎	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩下　暢道	大和住銀投信投資顧問	橋本　　浩	富国生命投資顧問
大槻　奈那	ﾒﾘﾙﾘﾝﾁ日本証券	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川縁　直樹	大和住銀投信投資顧問	柊　　宏二	QBR
國崎　宣彦	新光投信	摩嶋　竜生	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
笹島　勝人	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券	宮本　太郎	みずほ投信投資顧問
鮫島　豊喜	BNP ﾊﾟﾘﾊﾞ証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
相馬　正欣	三井住友信託銀行	山田　能伸	ﾄﾞｲﾂ証券
高井　　晃	大和証券		

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

コンピューターソフト

新日鉄住金ソリューションズ、ITホールディングス、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK　（計13社・コード順）

1．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	7	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	8	32
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	5	14
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	3	12
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	3	10
計		26	100

（注）具体的な評価項目および配点は95頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは18社の19名である。

2．評価結果

(1)　**総括**

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は94頁参照）。

本年度は、前回の具体的評価項目のうち、**コーポレート・ガバナンス関連**において1項目を新設し、既存2項目の内容および配点を変更したほか、他の分野において1項目の内容変更および1項目を削除して評価を実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、65.1点（ちなみに前回は63.7点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は14.1点（前回12.1点）となった。

評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が59%（前回56%）、**説明会等**が72%（同71%）、**フェアー・ディスクロージャー**が76%（同75%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が52%（同50%）、**自主的情報開示**が65%（同63%）となり、全ての分野で若干上昇したものの、**経営陣のIR姿勢等**および**コーポレート・ガバナンス関連が**他の分野に比べ低水準である。

具体的評価項目について見ると、全26項目のうち、5項目が平均得点率で80%以上となり、特に次の3項目は、多くの企業において満点あるいは90%台の高い得点率（評価点／配点〈以下省略〉）の評価となった。

① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分に注意（平均得点率90%、〔満点：2社、得点率90%台：9社〕）

② 外国人投資家にも配慮した情報提供（同85%、〔満点：11社〕）

③ 説明会資料等の付属資料の短信と同日の閲覧（同83%、〔満点：11社〕）

一方、次の3項目は全社の半数以上が低水準であり、また、**コーポレート・ガバナンス関連**で新設の③は、同分野の既存の2項目より10ポイント低い結果となった。得点率の低い企業の今後の改善が強く望まれる。

① 有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等の開催（平均得点率35%《前回23%》、〔得点率30%以下：7社〕）

② IR部門以外のセクションへのインタビュー等への積極的な対応（同43%《同38%》、〔同40%以下:5社〕）

③　中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況の十分な説明（同 45%、〔同 40%以下：7 社〕）

(2)　**上位個別企業の評価概要**

SCSK（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 3 回目〕、総合評価点：82.2 点、第 1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉77%）および**説明会等**（84%）が 2 社同得点第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（96%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）および**自主的情報開示**（78%）が第 1 位となった。

各分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが経営の方向性を明確に示していることに加え、経営幹部が取材に対応し、そのミーティングで充実した議論ができること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができる点や、車載ソフト事業の説明会を開催したことも評価された。さらに、主要事業および主要取引先に関しその収益性・将来性について開示する姿勢が見られる点等、IR の基本スタンスにおいても高い評価を受けた。

説明会等においては、利益増減要因を明確に説明していることに加え、説明資料に、顧客業種別売上高構成等や変動要因について十分記載している点等、説明資料における開示が充実している点も高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう注意を払っていることが満点評価されるなど、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明している点も評価され、この分野において他社と格差のあるトップの評価となった。

自主的情報開示では、受注や売上等の期中の状況説明を十分に行っていることや、CSR 報告書の内容が充実している点も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

野村総合研究所（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業【3 回連続第 2 位】、総合評価点：79.9 点）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）が 2 社同得点第 1 位、**説明会等**（82%）が 2 社同得点第 3 位、**フェアー・ディスクロージャー**（96%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（68%）が第 5 位、**自主的情報開示**（72%）が 2 社同得点第 2 位となった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが決算説明会および投資家・アナリスト向けミーティングに自ら出席して、業界動向や経営戦略等を説明している点が高い評価を受けた。また、主要事業に関する説明会等の開催に関し、コンサルティング事業や情報セキュリティ等の説明会がその時々のテーマ性の高いトピックで有益であったことで、全体的に得点水準が低い項目において、第 2 位以下と格差のある高い評価を受け、同部門の機能がトップの評価となった。

説明会等においては、説明資料に費用の主要項目を記載していること等、説明資料における開示が充実している点が高い評価を受けた。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高く評価された。

自主的情報開示では、CSR 報告書や統合報告書の内容について高い評価となった。

以上の結果、同社は、直近 3 回連続して上位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

ＩＴホールディングス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：76.2 点〔昨年度比+9.8 点〕《上昇幅第 1 位》、第 3 位←8 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（67%）が第 3 位、**説明会等**（79%）が第 6 位、**フェアー・ディスクロージャー**（95%）が第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（77%）が第 2 位、**自主的情報開示**（71%）が第 4 位となった。

同社は、5 分野全ての得点率が昨年度を上回り、昨年度と同一内容の 22 の具体的評価項目でも、連続満点を

除く 17 項目中 15 項目の得点率が昨年度を上回る改善となり、上記のような総合評価点および順位のアップにつながった。

全社の中で得点率が上位にある分野について具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営幹部とのミーティングが継続的に実施され有益であること等、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門に情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができることも高く評価された。さらに、自社の都合の悪い情報や低収益事業について積極的に開示する姿勢が見られる点等、IR の基本スタンスも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、その取組姿勢等この分野全体について高い評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を説明していることに加え、資本政策、株主還元策に関し説明しており、他の 1 社と共に格差のある評価となった。

自主的情報開示では、受注や売上等の期中データの状況説明を十分に行っていることが高い評価となった。

同社は、以上のように多くの面でディスクロージャーの改善を図っており、同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

新日鉄住金ソリューションズ

（総合評価点：73.9 点、第 4 位←4 位、分野別では、説明会等（84%）2 社同得点第 1 位、自主的情報開示（72%）2 社同得点第 2 位）

同社は、経営トップによるミーティングの開催など前向きな姿勢への変化が見られたほか、IR 部門に情報が集積されており、同部門の担当者と有益なディスカッションができることが評価された。また、主要事業および主要取引先に関しその収益性・将来性や、自社の都合の悪い情報も積極的に開示する姿勢が見られる等、IR の基本スタンスについても高い評価となった。さらに、**説明会等**においては、利益増減要因を明確に説明している点等、説明会、インタビューにおける開示も高く評価された。

加えて、**自主的情報開示**では、受注や売上等の期中の状況説明を十分に行っている点も評価された。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（コンピューターソフト）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目7（配点 32点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目8（配点 32点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目5（配点 14点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3（配点 12点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(9719) SCSK	82.2	24.7	1	27.0	1	13.4	2	9.3	1	7.8	1	1
2	(4307) 野村総合研究所	79.9	24.7	1	26.3	3	13.5	1	8.2	5	7.2	2	2
3	(3626) ITホールディングス	76.2	21.3	3	25.3	6	13.3	3	9.2	2	7.1	4	8
4	(2327) 新日鉄住金ソリューションズ	73.9	20.9	4	27.0	1	12.9	7	5.9	7	7.2	2	4
5	(8056) 日本ユニシス	73.3	18.5	9	26.3	3	13.2	4	8.3	4	7.0	5	5
6	(4739) 伊藤忠テクノソリューションズ	73.2	19.9	5	26.1	5	12.2	8	8.5	3	6.5	8	3
7	(9613) エヌ・ティ・ティ・データ	70.5	18.9	7	23.8	8	13.2	4	7.6	6	7.0	5	7
8	(4704) トレンドマイクロ	67.6	18.8	8	24.6	7	13.1	6	5.1	8	6.0	11	6
9	(4768) 大塚商会	57.7	19.4	6	17.7	11	9.5	10	4.8	9	6.3	9	10
9	(7518) ネットワンシステムズ	57.7	16.3	10	23.5	9	8.0	11	3.8	11	6.1	10	9
11	(4716) 日本オラクル	54.2	12.9	12	23.1	10	9.7	9	3.9	10	4.6	13	11
12	(4733) オービックビジネスコンサルタント	44.9	15.4	11	15.3	12	4.6	12	2.9	12	6.7	7	12
13	(4684) オービック	35.4	12.1	13	13.6	13	1.7	13	2.7	13	5.3	12	13
	評価対象企業評価平均点	65.1	18.8		23.0		10.6		6.2		6.5		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は、14.1点、前回は12.1点であった。

27年度評価項目および配点(コンピューターソフト)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会に経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。	4
② 経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	6
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4
③ 有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。［過去1年間を目安に評価］	4
(3) IRの基本スタンス	
① 主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
② 自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示 〔**連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)**〕	
① 利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	4
② 重要な連結会社あるいは関連会社の経営動向が十分に説明されていますか。 ［**重要な連結会社あるいは関連会社がない場合は満点評価とする**］	4
(2) 説明資料等(**短信およびその付属資料を含む**)における開示 〔**連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)**〕	
① 説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。［閲覧できる:3点　閲覧できない:0点］	3
② セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および売上利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。	4
③ セグメント変更があった場合(**合併等を含む**)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。 ［**セグメント変更(合併等を含む)がない場合は満点評価とする**］	2
④ 費用の主要項目(**労務費、外注費、機器販売原価等**)および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。	5
⑤ 顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、また変動要因について十分に説明されていますか。	4
⑥ 四半期ごとに業績動向に関する説明会(**電話会議を含む**)を開催していますか。［全て開催:6点　その他:0点］	6
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (14点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
② 決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 ［終了後同日中にできる:4点　後日できる:2点　できない:0点］	4
③ 決算説明会の質疑応答の状況が、電話、ウェブキャストあるいはホーム・ページで十分に分かるようになっていますか。	4
(2) 外国人投資家向け情報提供	
① 外国人投資家にも配慮した情報提供(**ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等**)に努めていますか。 ［十分である:2点　不十分:0点］	2
② 外国人投資家向けのIR活動(**海外IR**)に努めていますか。［海外IRあり:2点　なし:0点］	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (12点)
(1) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標(**例えば、営業利益率、ROE等**)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	4
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	4
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策(**キャッシュポジション、金庫株等**)、株主還元策(**配当性向、自社株買い等**)に関し十分に説明されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
① 受注や売上等の期中データの開示・状況説明は十分ですか。	4
② 事業または財務上のリスク情報(**不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等**)の開示が十分になされていますか。	4
③ CSR報告書・環境報告書・統合報告書のいずれかの内容は充実していますか。	2

コンピューターソフト専門部会委員

部　会　長	上野　　真	大和証券
部会長代理	宮地　正治	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	菊池　　悟	SMBC 日興証券
	黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	田中　秀明	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
	寺島　　正	大和証券投資信託委託

評価実施アナリスト（19 名）

浅川　直騎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山藤　秀明	QBR
市川　雅敏	三井住友信託銀行	田中　秀明	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
伊藤　真仁	みずほ信託銀行	寺島　　正	大和証券投資信託委託
井上　直之	第一生命保険	土門　　泰	りそな銀行
岩渕　啓介	岡三証券	滑川　　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上野　　真	大和証券	引地　真二	損保ｼﾞｬﾊﾟﾝ日本興亜ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	堀　　雄介	みずほ証券
菊池　　悟	SMBC 日興証券	前田　俊明	QBR
黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮地　正治	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
坂井　ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

ミクシィ、ジェイ エイ シー リクルートメント(注1)、クルーズ、コシダカホールディングス、夢真ホールディングス、アドウェイズ、インフォマート、ユナイテッド、日本マクドナルドホールディングス、フジオフードシステム、セリア、じげん、ガンホー・オンライン・エンターテイメント(注2)、ドリコム、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム、セプテーニ・ホールディングス、プロトコーポレーション、デジタルガレージ、USEN、エン・ジャパン、サン電子、イリソ電子工業、ピーシーデポコーポレーション、CYBERDYNE、サマンサタバサジャパンリミテッド、ワイヤレスゲート　（計26社・コード順）

1．評価対象企業の選定

本新興市場銘柄の個別企業の評価対象は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Boardおよびアンビシャスの五つの市場に上場している企業（注3）の中で、時価総額上位（注4）であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数（注5）が一定数以上の26社とした。なお、26社中、17社は昨年度からの継続評価対象企業、3社は再対象企業、6社は新規評価対象企業である。

(注1) 当社は、本年8月28日にジャスダックから東京証券取引所市場第一部へ市場変更となったが、ジャスダック上場時の評価である。

(注2) 当社は、本年9月16日にジャスダックから東京証券取引所市場第一部へ市場変更となったが、ジャスダック上場時の評価である。

(注3) アナリストに評価スコアシートを発送する本年5月下旬時点で上場後1年未満の企業は対象から除いている。

(注4) 本年度の対象企業の選定にあたって基準とした時価総額は、本優良企業選定のための準備作業開始直前の、昨年12月下旬時点のものである。

(注5) 本年1月、新興市場銘柄をカバーするアナリストに対して照会した結果を参考とした。

2．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	**経営陣のIR姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	30
③フェアー・ディスクロージャー	**フェアー・ディスクロージャー**	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	20
計		10	100

（注）具体的な評価項目および配点は102頁参照

(2)　評価実施（スコアシート記入）アナリストは29社の63名である。

3．評価結果

(1)　**総括**

評価結果の概要は次のとおりである（ディスクロージャー評価比較総括表は101頁参照）。

本年度は、昨年度の具体的評価項目のうち、1項目の内容の一部を変更して評価を実施したことに加え、新規対象企業または再対象企業も複数ある。このため、昨年度と同列には比較はできないが、本年度の総合評価平均点は62.9点（ちなみに昨年度〔評価対象企業29社〕の平均点は、63.4点）となった。また、本年度の総合評価点の標準偏差は10.5点（昨年度6.3点）であった。

総合評価点が80点台の水準となった企業は2社（昨年度0社）、70点台が6社（同6社）、60点台が7社（同15社）で、60点台以上の評価となった企業は昨年度より6社減少した。他方、50点台の企業は8社（同7社）、

40点台の企業は3社（同1社）で50点台以下の企業は3社増加した。

評価項目の 4 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 66%、**説明会等**が 61%、**フェアー・ディスクロージャー**が 69%、**コーポレート・ガバナンス関連**が 57%となり全分野共昨年度と同水準の結果となった。

また、アナリストの意見を見ると、経営陣自らIRを行っていること等その取組姿勢や、IR部門の対応等その機能について総じて評価できるとの声があった。

一方、全具体的評価項目（10）の平均得点率について見ると、3 項目が 50%台の水準にとどまり、特に、経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制についての十分な説明の項目は、多数（17 社）の企業の得点率が 50%台以下となっており今後の改善が強く望まれる。

(2) 優良企業の評価概要

セリア（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点：80.7 点、第 1 位←前回 1 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）が第 2 位、**説明会等**（80%）が第 1 位、**フェアー・ディスクロージャー**（81%）が第 4 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（75%）が 2 社同得点第 1 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップがIRに対して積極的で足元の状況と今後の戦略を十分に説明している点等、経営陣のIR姿勢がトップの評価を受けた。また、IR部門より分析に必要な定量情報が提供されること等、同部門の機能も高い評価となった。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益等の事業についても率先して開示していること等、IRの基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われているほか、業界展望を踏まえ中長期の戦略に重きを置いて説明されている点等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。また、収益および財務分析に必要なデータが説明資料等に記載されていることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分注意している取組姿勢が高い評価となったことに加えて、当社を分析する上で必要な基本的情報がホーム・ページに数多く掲載されている点も評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、経営機構、経営資源および内部統制やリスク管理等について説明していることが評価されたほか、資本政策、株主還元策、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明している点も評価され、この分野において低得点率企業が多い中、他の 1 社と共にトップの高い評価となった。

ピーシーデポコーポレーション（ディスクロージャー優良企業〔新規〕、総合評価点：80.5 点、第 2 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**（86%）が第 1 位、**説明会等**（79%）および**フェアー・ディスクロージャー**（83%）が第 3 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が 2 社同得点第 3 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、トップ自らIR活動に積極的であること等、経営陣のIR姿勢が高い評価を受けた。また、IR部門の担当者がしっかり数値を把握している点等、同部門の機能も高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益等の事業についても積極的に開示していること等、IRの基本スタンスについても高く評価された。

説明会等においては、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われているほか、中長期の成長見通しについて具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。また、説明資料において月次伸び率を開示していることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分注意している取組姿勢が高い評価となったことに加えて、当社を分析する上で必要な基本的情報がホーム・ページに数多く掲載されている点も評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、経営機構、経営資源および内部統制やリスク管理等について説明していること等が評価された。

フジオフードシステム（ディスクロージャー優良企業〔新規〕総合評価点：75.5 点、2 社同得点第 3 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**説明会等**(79%)が第2位、**フェアー・ディスクロージャー**(76%)が 2 社同得点第 5 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が 2 社同得点第 3 位であった。

説明会等においては、各業態の店舗数を開示すること等により、今期業績計画について根拠を示し、整合性のある説明をしている点や、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていることが評価されたほか、中長期の成長見通しについて具体的に根拠を示し整合性のある説明をしている点等、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。また、収益および財務分析に必要なデータが説明資料等に記載されていることも評価された。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク情報等の事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分注意している取組姿勢が評価された。

コーポレート・ガバナンス関連では、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること等が評価された。

以上のほか、IR 部門が会社の状況等を的確に説明していること等、同部門の機能について高く評価された。

プロトコーポレーション（ディスクロージャー優良企業〔6 回目〕総合評価点：75.5 点〔昨年度比+7.1 点《上昇幅第 3 位》〕、2 社同得点第 3 位←前回 8 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**フェアー・ディスクロージャー**（85%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（75%）が 2 社同得点第 1 位であった。

フェアー・ディスクロージャーに関しては、投資家にとって重要と判断される業績変動やリスク要因について的確な開示が行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている取組姿勢が高く評価されたことに加え、決算説明会の動画提供など基本的情報がホーム・ページに掲載されていること等、ホーム・ページにおける情報提供も高い評価となり、この分野においてトップの評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明している点が評価されたほか、経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明していることも評価され、この分野において低得点率企業が多い中、他の 1 社と共にトップの高い評価となった。

以上のほか、社長の説明と IR の説明が一致しており、相互に補足できるため、当社に対する理解が深まることや、IR ミーティング時における質問・不明事項の確認徹底等により、意思疎通を図る意識が高いことなど IR 部門の機能が高く評価された。

上記の**セリア**、**ピーシーデポコーポレーション**ならびに**フジオフードシステム**および**プロトコーポレーション**の 4 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 4 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として推薦する。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

コシダカホールディングス（総合評価点：74.1 点〔昨年度比+3.9 点〕、第 5 位←前回 6 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 3 位、**説明会等**（74%）が第 5 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略等を十分に説明していること等、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門が経営陣の代弁者として機能しており、経営陣と情報を共有している点も評価された。さらに、低収益、赤字事業について開示し、その対応策を説明していることも評価された。

説明会等においては、今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていることや、四半期の情報開示が経営実態に即して行われている点に加え、セグメント情報が充実していることも高く評価された。

イリソ電子工業（総合評価点：74.0 点〔昨年度比+2.6 点〕、第 6 位← 前回 3 位）

全社の中で同社の得点率が上位にある分野は、**経営陣の IR 姿勢等**（80%）および**説明会等**（75%）が第 4 位であった。

経営陣の IR 姿勢等においては、社長が四半期ごとの決算説明会において、自ら短期・中長期の経営戦略を説明

していることのほか、積極的な投資家訪問を行っている点等、経営陣の IR への取組姿勢が高い評価となった。また、経営上のリスクや不採算事業についても明確な言及があること等、IR の基本スタンスについても評価された。

説明会等においては、中・長期の成長見通しについて、客観的データを用い説明している点等、説明会、インタビューにおける開示が評価された。

以　上

平成27年度　ディスクロージャー評価比較総括表（新興市場銘柄）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 30点）		3．フェアー・ディスクロージャー 評価項目2（配点 15点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点 20点）	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	(2782) セリア	80.7	29.8	2	23.9	1	12.1	4	14.9	1
2	(7618) ピーシーデポコーポレーション	80.5	30.2	1	23.6	3	12.4	3	14.3	3
3	(2752) フジオフードシステム	75.5	26.0	7	23.8	2	11.4	5	14.3	3
3	(4298) プロトコーポレーション	75.5	25.8	8	22.0	6	12.8	1	14.9	1
5	(2157) コシダカホールディングス	74.1	28.6	3	22.2	5	11.3	7	12.0	9
6	(6908) イリソ電子工業	74.0	27.9	4	22.6	4	10.7	11	12.8	5
7	(4293) セプテーニ・ホールディングス	72.6	26.9	5	20.4	8	12.5	2	12.8	5
8	(4849) エン・ジャパン	71.3	26.7	6	21.5	7	11.4	5	11.7	10
9	(2121) ミクシィ	68.5	25.0	9	19.6	9	11.1	9	12.8	5
10	(3765) ガンホー・オンライン・エンターテイメント	65.8	24.3	10	18.0	14	11.2	8	12.3	8
11	(2124) ジェイ エイ シー リクルートメント	63.0	23.4	11	19.0	11	9.5	18	11.1	16
12	(2492) インフォマート	62.6	22.0	16	19.6	9	9.8	15	11.2	14
13	(3793) ドリコム	61.6	23.1	12	16.6	17	10.6	12	11.3	13
14	(4819) デジタルガレージ	61.5	21.9	17	18.5	12	10.4	13	10.7	17
15	(7829) サマンサタバサジャパンリミテッド	60.4	20.8	20	18.0	14	9.9	14	11.7	10
16	(2138) クルーズ	58.8	22.9	14	14.5	23	10.8	10	10.6	19
17	(2362) 夢真ホールディングス	58.4	22.2	15	16.8	16	8.8	21	10.6	19
17	(4281) デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム	58.4	19.2	22	18.2	13	9.8	15	11.2	14
19	(9419) ワイヤレスゲート	58.1	23.0	13	15.7	20	8.7	23	10.7	17
20	(2497) ユナイテッド	56.2	21.4	18	16.3	18	9.8	15	8.7	23
21	(6736) サン電子	56.1	21.0	19	16.3	18	8.9	19	9.9	21
22	(4842) USEN	53.8	18.3	23	15.7	20	8.4	24	11.4	12
23	(7779) CYBERDYNE	53.1	20.5	21	14.7	22	8.4	24	9.5	22
24	(2489) アドウェイズ	48.0	17.9	24	13.1	24	8.8	21	8.2	24
25	(3679) じげん	47.2	17.7	25	12.5	25	8.9	19	8.1	25
26	(2702) 日本マクドナルドホールディングス	40.1	13.0	26	11.6	26	8.4	24	7.1	26
	評価対象企業評価平均点	62.9	23.0		18.2		10.3		11.4	

（注1）総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
（注2）評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.5点、昨年度は6.3点であった。

27年度評価項目および配点(新興市場銘柄)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (35点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]	15
(2) IR部門の機能	
・ IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
② 中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
・ 収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (15点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページ(ウエッブ・サイト)に、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示	
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2) 経営機構、経営資源および内部統制について	
・ 経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10

新興市場銘柄専門部会委員

部　会　長	納　博司	いちよし経済研究所
部会長代理	得能　修	ｲﾝﾍﾞｽｺ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	繁村　京一郎	野村證券
	中川　雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	中野　次朗	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	東田　暁	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	南　利昭	三井住友信託銀行
	山口　威一郎	大和証券投資信託委託
	渡辺　真理子	UBS 証券

評価実施アナリスト（63 名）

赤羽　高	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
新谷　嘉史	三井住友信託銀行
有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券
石塚　浩一	DIAM ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石飛　益徳	ｴｰｽ経済研究所
石橋　剛	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
市川　雅敏	三井住友信託銀行
伊藤　真仁	みずほ信託銀行
井上　直之	第一生命保険
入沢　健	立花証券
岩本　誠一郎	みずほ投信投資顧問
上杉　佳代	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大原　一真	野村證券
大牧　実慶	立花証券
沖汐　勇樹	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
忍足　大介	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
織田　浩史	SMBC 日興証券
梶山　洋行	みずほ信託銀行
金森　都	SMBC 日興証券
城戸　謙治	みずほ信託銀行
高口　伸一	三井住友信託銀行
小林　大	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
近藤　将人	三井住友信託銀行
酒井　洋	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐藤　俊郎	極東証券経済研究所
佐渡　拓実	大和証券
醒井　周太	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鮫島　誠一郎	いちよし経済研究所
繁村　京一郎	野村證券
杉本　健斗	SMBC 日興証券
宝田　めぐみ	東洋証券
竹内　織絵	ｲﾝﾍﾞｽｺ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
武田　純人	UBS 証券
田中　俊	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
田村　真一	極東証券経済研究所
寺島　正	大和証券投資信託委託
得能　修	ｲﾝﾍﾞｽｺ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
中川　雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
永田　和子	QBR
中野　次朗	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
並木　浩二	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
納　博司	いちよし経済研究所
萩原　幸一朗	東海東京調査ｾﾝﾀｰ
花井　由紀子	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
張谷　幸一	いちよし経済研究所
東田　暁	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
樋口　夏子	三井住友信託銀行
姫野　良太	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
平井　克典	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
福永　敬輔	三井住友信託銀行
藤井　真由美	ｲﾝﾍﾞｽｺ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
松嶋　俊介	三井住友ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
松村　茂	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
南　利昭	三井住友信託銀行
宮崎　充	SMBC ﾌﾚﾝﾄﾞ調査ｾﾝﾀｰ
椋田　浩章	日興ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
安田　秀樹	ｴｰｽ経済研究所
山口　威一郎	大和証券投資信託委託
山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
米島　慶一	ﾊﾞｰｸﾚｲｽﾞ証券
渡辺　真理子	UBS 証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

大東建託、カカクコム、旭化成、三井化学、プロトコーポレーション、野村総合研究所、昭和シェル石油、日本電産、オムロン、シスメックス、マツダ、富士重工業、ピーシーデポコーポレーション、三菱商事、三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ、みずほフィナンシャルグループ、東京急行電鉄、日本電信電話、東京瓦斯、大阪瓦斯

（計 20 社・コード順）

1．評価対象企業の選定

本優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（14 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割の企業（小数点切上げ）のうち、平成 26 年 7 月から 27 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を開催している 20 社とした。

本年度の評価対象企業の内訳は、継続対象が 11 社、再対象が 2 社、新規が 7 社である。また、新規対象以外では、本選定を開始した 17 年度以降 10 回目 3 社（10 回連続 2 社、9 回連続 1 社）、9 回目 2 社（4 回連続 1 社、2 回連続 1 社）、6 回目 4 社（6 回連続 1 社、6 回目 1 社、4 回連続 1 社、3 回連続 1 社）、5 回目 1 社、4 回目 3 社（4 回連続 1 社、3 回連続 1 社、2 回連続 1 社）となっている。

2．評価方法等

(1)　評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	本文中の略称	評価項目数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	**個人投資家向け会社説明会**	4	21
②ホーム･ページにおける開示等	**ホーム･ページ**	9	61
③事業報告書等の内容（注）	**事業報告書等**	3	18
計		16	100

（注）直近事業年度の事業報告書（または報告書）、株主通信（または株主の皆様へ）など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、分かりやすい解説を行っている IR 関連資料（アニュアルレポートは除く）として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とした。

(2)　具体的評価項目と配点および評価方法

具体的な評価項目および配点は 108 頁に記載したとおりであるが、このうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 5 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（15 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3．評価結果

(1)　**総括**

評価結果の概要は次のとおりである（個人投資家向け情報提供における評価比較総括表は 107 頁参照）。

総合評価平均点は 71.5 点で、上位 3 社の評価点は 80 点台（昨年度は 6 社が 80 点台）の高い評価となり、続く上位 13 位までの 10 社が 70 点台（同 11 社）の好評価となった。評価項目の 3 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**個人投資家向け会社説明会**が 62%（昨年度 61%）、**ホーム･ページ**が 75%（同 78%）、**事業報告書等**が 69%（同 71%）となり、昨年度とほぼ同水準の結果となった。

評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した 5 項目について見ると、個人投資家向け会社説明会の開催に関しては、昨年 7 月から本年 6 月までの 1 年間の平均開催回数は、9.6 回（昨年度：対象企業 23 社で 9.9 回）であり、社長が説明を行っている企業は、対象企業 20 社中 9 社：45%（昨年度：23 社中 8 社 35%）で、その割合は昨年度をやや上回った。

さらに、個人投資家向け会社説明会の内容をホーム･ページに掲載している企業は、20 社中 15 社：75%（昨

年度 23 社中 17 社 74%）であり、説明会の内容を掲載している企業の比率は同程度となっている。

この 15 社について見ると、配布資料に加え動画または音声配信で視聴等ができる企業は、9 社：60%（昨年度：17 社中 11 社 65%）、資料のみは 6 社：40%であり、動画または音声を配信する企業の割合はやや減少した。

次に、**ホーム・ページ**に関しては、独立した個人投資家向けサイトを設けている企業は、全社：100%（昨年度：22 社：96%）であり、その割合は昨年度より上昇した。

また、「各種説明会（個人投資家向け説明会を除く）の内容をホーム・ページに掲載しているか」については、昨年度と同様に全社が対応できている。その内容について見ると、動画掲載が 13 社（65%〔昨年度 43.5%〕）、音声配信が 5 社（25%〔昨年度 43.5%〕）、資料のみ掲載が 2 社となっており、その割合を昨年度と比べると、動画掲載が大きく増加している。

なお、「良くある質問と回答（FAQ、説明会時の質疑応答を除く）」は全社が掲載している（昨年度も同様）。

また、専門部会委員による評価は 11 項目について行った。その評価は、開示内容が、一般投資家に理解できるように具体的に分かりやすく説明・記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から行った。

これらの項目についての評価結果は次のとおりであり、11 項目中 2 項目が昨年度を上回ったものの、7 項目が昨年度を下回った（個人投資家向け会社説明会、個人投資家向けサイトの充実度は、ホーム・ページに掲載のある企業についての評価点での比較）。

【個人投資家向け会社説明会】

・ ホーム・ページに掲載された個人投資家向け会社説明会の充実度と分かりやすさ：平均得点率〔掲載 15 社：77%〕（昨年度：掲載 17 社：76%）

【ホーム・ページ】

① IR に関するホーム・ページの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度：平均得点率〈以下省略〉83%（昨年度：83%）

② 個人投資家向けサイトの画面構成、探しやすさ、分かりやすさ等を含めた充実度：〔サイト有り：20 社：80%〕（同：22 社：80%）

③ 事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明の分かりやすさ：74%（同 79%）

④ 各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について

A. 業績動向の説明の具体性と分かりやすさ：75%（同 78%）

B. 業界動向の説明の分かりやすさ：63%（同 69%）

C. 経営目標、経営戦略の説明の具体性と分かりやすさ：74%（同 78%）

⑤ 良くある質問と回答（FAQ）の充実度と分かりやすさ：68%（同：70%）

【事業報告書等】

① 全体として、図表を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が理解しやすいような工夫度：平均得点率〈以下省略〉70%（昨年度：75%）

② 経営方針、中・長期経営ビジョンの説明の簡潔度と分かりやすさ：67%（同 65%）

③ 業績の動きの説明の分かりやすさ：70%（同 72%）

(2) 優良企業の評価概要

シスメックス（総合評価点：87.1 点、第 1 位←2 位、〔4 回連続 4 回目の評価対象かつ優良企業〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（93%）および**ホーム・ページ**（85%）が第 1 位、**事業報告書等**〈同社は期末株主通信（第 48 期）〉（86%）が第 2 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会（この項目の評点は、開催回数に応じ、2 回以上：2 点、1 回：1 点の 2 段階とした。）は、7 回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム・ページで動画配信され、なじみの薄い医療関係の事業を個人投資家の目線で丁寧に紹介しており、分かりやすいことに加え、的確な例えを用い独自のビジネスモデルや収益構造など強みについて分かりやすく説明している点が高く評価された。

ホーム・ページにおいては、個人投資家向けサイトに関し、入り口が目立つ作りとなっている上、個人投資家が知りたいと思うコンテンツが見やすく配置され、内容もクエスチョン形式で説明するなど充実しており、分かりやすいことが極めて高い評価を受けた。また、掲載されている各種資料での業績動向に関し、業績が安定して成長していることを実績グラフと要因分析により分かりやすく説明していることも高く評価された。さらに、FAQ

に関し、事業内容、R&D、経営戦略など幅広い分野の多くの質問に対して、細かく答えており、充実した内容となっている点も高い評価となった。

事業報告書等については、経営方針等に関し、Q&A 形式を織り交ぜ、工夫の凝らされた図表やグラフを活用し、中期経営計画のビジョン、目標数値とその取り組みについて分かりやすく説明していることが高く評価された。

三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ（総合評価点：84.1 点、第 2 位、〔新規優良企業、評価対象 2 回連続 4 回目〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（90%）および**ホーム･ページ**（81%）が第 4 位、**事業報告書等**〈同社は統合報告書（2015）〉（89%）が第 1 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、10 回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム･ページで動画配信されている。

ホーム･ページにおいては、個人投資家向けサイトに関し、「MUFG はじめてナビ」で同社の歴史、強み、世界でのポジション、めざす姿などを分かりやすく見せているほか、個人投資家が知りたいと思うコンテンツを目立つよう配置していることが高い評価となった。

事業報告書等については、文字の大きさが適切である上、写真、図表、グラフなどを多用し、見やすく充実した内容である点が極めて高く評価された。また、業績動向に関し、「2014 年度の振り返りと分析」において昨年度の業績を全社ベースで振り返ることができるほか、「事業本部別戦略」において本部ごとの昨年度の実績がグラフとともに分かりやすく記載されていることも極めて高い評価を受けた。

日本電産（総合評価点：82.7 点、第 3 位←3 位、〔3 回連続 9 回目の優良企業、評価対象 9 回連続 10 回目〕）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（76%）が第 10 位、**ホーム･ページ**（84%）が第 2 位、**事業報告書等**〈同社は株主通信（第 42 期事業のご報告）〉（85%）が第 3 位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は、評価対象期間中に 21 回開催され、社長等が参加して説明を行っている。説明会の資料はホーム･ページに掲載されている。

ホーム･ページにおいては、掲載されている各種資料での業界動向に関し、事業環境の認識を詳しく説明し、自社の強みとからめ今後の方針に説得力をもたせていることや、関連市場の規模についてグラフや写真を多用し分かりやすく説明している点が評価された。 また、掲載されている各種資料での経営目標等に関し、自社の強み、実績および戦略について、数値に加え理解しやすい事例を挙げて分かりやすく説明しているほか、注目新規分野を通じた成長戦略を具体的データやグラフを基に詳しく紹介していることも高い評価となった。

事業報告書等については、経営方針に関し、会長へのトップインタビューにより分かりやすく説明しているほか、新中期戦略目標に関して具体的数値目標、達成に向けた取り組み等についてグラフを用い簡潔ながら丁寧に説明している点が高く評価された。

上記の**シスメックス**、**三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ**および**日本電産**の 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として推薦する。

以　上

平成27年度　個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．個人投資家向け会社説明会の開催等 開催回数、社長等代表役員の説明の有無等4項目 （配点 21点）		2．ホーム・ページにおける開示等 個人投資家向けサイトの有無や、事業内容、各種説明会資料の分かりやすさ等9項目 （配点 61点）		3．事業報告書等の内容 経営方針、中・長期経営ビジョンや業績動向の説明の分かりやすさ等3項目 （配点 18点）	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	(6869) シスメックス	87.1	19.6	1	52.0	1	15.5	2
2	(8306) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.1	18.8	4	49.3	4	16.0	1
3	(6594) 日本電産	82.7	16.0	10	51.4	2	15.3	3
	評価対象企業(20社) 評価平均点	71.5	13.1		46.0		12.4	

27年度評価項目および配点(個人投資家向け情報提供)

(過去1年間に「個人投資家向け会社説明会」を開催した企業について評価:網掛けの項目は対象企業へのアンケート結果を基に評点)

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等	配点 (21点)
(1) 過去1年間(前年7月から本年6月までの間)に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上:2点、B.1回:1点]	2
(2) 個人投資家向け会社説明会は、社長が説明を行いましたか。 [A.社長が行った:3点、B.社長以外が行った:1点]	3
(3) 個人投資家向け会社説明会の内容は、ホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる:6点、B.配布資料の掲載のみ:3点、C.掲載なし:0点]	6
(4) ホーム・ページに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、分かりやすく(一般投資家に理解できるように)、かつ充実していますか。 [1点～10点の整数で評価。掲載なし:0点]	10
2. ホーム・ページにおける開示等	**配点 (61点)**
(1) IRに関するホーム・ページは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ分かりやすく工夫されていますか。 [1点～4点の整数で評価]	4
(2) 個人投資家向けサイト(個人投資家の皆様へ等の独立したサイト)が設けられていますか。 [A.あり:2点、B.なし:0点]	2
(3) 個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ分かりやすく工夫されていますか。 [1点～5点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合:0点]	5
(4) 事業内容(主力商品、主力サービス等)が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(5) ホーム・ページに掲載されている各種説明会資料(個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む)について	
A 業績の動きが、具体的に分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
B 業界動向が分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
C 経営目標・経営戦略が、会社の強み(業界シェアや他社との差別化等を含む)や課題等を踏まえて、具体的にかつ分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(6) 各種説明会(個人投資家向け会社説明会を除く)の内容はホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 [A.動画または音声で視聴できる:5点、B.資料のみ掲載:2点、C.掲載なし:0点]	5
(7) ホーム・ページに掲載のよくある質問と回答(FAQ)[説明会時の質疑応答は除く]は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、分かりやすいですか。 [1点～5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合:0点]	5
3. 事業報告書等の内容 【注】	**配点 (18点)**
(1) 全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 [1点～6点の整数で評価]	6
(2) 経営方針、中・長期経営ビジョンが分かりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点～6点の整数で評価]	6
(3) 業績の動きが分かりやすく(読み手が理解しやすいように)説明されていますか。 [1点～6点の整数で評価]	6

【注】直近事業年度の事業報告書(または報告書)、株主通信(または株主の皆様へ)など株主や個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、分かりやすい解説を行っているIR関連資料(アニュアルレポートは除く)として作成しているもので、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部　会　長	竜沢　俊彦	野村證券
部会長代理	牛尾　　貴	丸三証券
	井場　浩之	SMBC 日興証券
	岩崎　利昭	水戸証券
	鵜崎　和彦	岡三証券
	宇田川　克己	いちよし証券
	内生蔵　淳	みずほ証券
	大坂　隼矢	野村證券
	大塚　俊一	いちよし証券
	河合　信夫	みずほ証券
	高橋　卓也	大和証券
	堀内　敏一	岩井ｺｽﾓ証券
	松本　　寿	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	山崎　徳司	大和証券
	吉越　昭二	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(平成 27 年度)

平成 27 年 10 月発行

編集兼発行所　公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
電話　03(3666)1515
http://www.saa.or.jp

印刷所　　株式会社 太平社